

宮城県仙台市

# 郡山遺跡 32

— 平成23年度発掘調査概報 —  
郡山遺跡・与兵衛沼窯跡



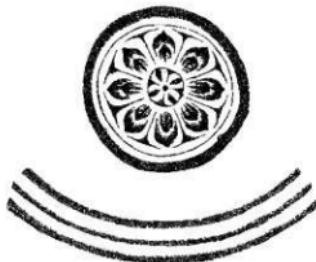
2012.3

仙台市教育委員会

宮城県仙台市

# 郡山遺跡 32

— 平成23年度発掘調査概報 —  
郡山遺跡・与兵衛沼窯跡



2012.3

仙台市教育委員会

## 序 文

郡山遺跡の発掘調査事業は、昭和55年の国庫補助事業による確認調査を開始して以来31年目となりました。平成18年7月に「仙台郡山官衙遺跡群 郡山官衙遺跡 郡山廃寺跡」として国史跡に指定され、今後の歴史公園を中心とした街づくりに大きな一歩を踏み出しているところであります。32年のながきにわたり、発掘調査の継続が出来ましたのも遺跡の究明にご助言をいただいた先学の諸氏や、地元の地権者の皆様からのご協力があったからと感じております。

本年度は、郡山遺跡に関連する官衙とみられる大野田官衙遺跡と愛宕山横穴墓群等での発掘調査等を予定していましたが、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、市内の各所で大きな被害が出たことから、計画の変更をしました。したがって、今年度は個人の住宅建替えに伴う事前調査のみに限り実施することとしております。郡山遺跡だけでも例年の3倍以上の調査となっております。早期に復旧、復興がはかられ、市民生活の回復とともに郡山遺跡を初めとした重要遺跡の調査再開も待ち望まれるものであります。

これまでの調査成果が遺跡保護と整備、さらに活用に生かされる資料となるよう努めてまいります。今後とも皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年3月

仙台市教育委員会  
教育長 青沼 一民

## 例 言

- 本書は国庫補助事業による市内遺跡調査のうち、郡山遺跡内の個人住宅建築工事に関連した発掘調査と、与兵衛沼窯跡での遣構、遺物の分布調査報告である。
- 本概報は調査速報を目的としている。執筆は以下のように分担した。

第1章 佐藤正弥	第2章 大久保弥生
第3章 長島栄一・佐藤正弥	第4章 佐藤正弥
- 本書の作成に関わる作業は、以下のように分担し、総集は大久保弥生が行なった。  
遺物写真撮影：佐藤正弥  
遺物観察表・遺構記表作成：大久保弥生・佐藤正弥  
図版作成：大久保弥生・佐藤正弥・水野一夫
- 本書の内容は既に公開されている「平成23年度宮城県遺跡調査発表会発表要旨」に優先する。
- 本書に係る出土遺物、実測図、写真などは仙台市教育委員会が保管している。

## 凡 例

- 断面図の標高値は、海拔高度を示している。但し、海拔高度及び座標系は、平成23年（2011）3月11日の東日本大震災以前の値を使用している。
- 第2章の図中に示した座標系は、郡山遺跡内に昭和56年に設定し、平成8年度に改訂した任意の座標系（X=0、Y=0を通る磁北線（1984年頃の偏角で、真北から $6^{\circ}44'7''$ 西傾））で表記している。
- 文中の方位は、真北を基準としている。また、図中の方位に「☆」を付したものは真北を示し、これ以外の方位は座標系に沿った磁北を示している。
- 遺構の略称は次のとおりである。遺構番号はこれまで調査された調査区を通しての番号順である。但し、ピットは調査区毎となっている。

SA：柱列・木材列	SB：掘立柱建物跡	SD：溝跡	SI：豊穴住居跡	SK：土坑
SX：性格不明遣構	Pit：ピット・柱穴			
- 建物跡模式図中の記号は、以下の基準により図示した。

●：柱痕跡が検出されたもの	○：柱穴掘り方のみ検出されたもの
---------------	------------------
- 遺物の略号は次のとおりである。

A：縄文土器	B：弥生土器	C：土師器（ロクロ不使用）	D：土師器（ロクロ使用）	
E：須恵器	F：丸瓦・軒丸瓦	G：平瓦・軒平瓦	K：礫石器	N：鉄製品
- 土師器実測図における網掛けは、黒色処理が施されていることを示している。その他の付着物や痕跡は図上に表記している。
- 遺物観察表中の法量で（ ）が付いた数字は、図上で復元した推定値である。
- 土色については「新版標準土色帖」（小山・竹原1989）を使用した。
- 第1図は、1:10000「仙台駅」「長町」「西多賀」を使用して作成した。また、第3章第48図は、「仙台市文化財報告書第366集 与兵衛沼窯跡」第7図を引用し、加筆したものである。
- 本文中の「灰白色火山灰」は県内で広域に分布する「灰白色火山灰」（山田・庄子1980）と同義である。この火山灰は現在「十和田a火山灰（To-a）」（大池1972）と推定されており、降下年代は西暦915年とされている（町田・新井1992、小口2003など）。

# 目 次

## 第1章 はじめに

I. 郡山遺跡・仙台平野の遺跡群の調査体制	1
II. 調査計画と実績	
1. 調査計画	1
2. 調査実績	2

## 第2章 郡山遺跡

I. 第204次発掘調査	
1. 調査経過と調査方法	4
2. 出土遺物	4
II. 第205次発掘調査	
1. 調査経過	5
2. 調査方法と基本層序	8
3. 発見遺構と出土遺物	8
4. まとめ	15
III. 第207次発掘調査	
1. 調査経過	20
2. 調査方法と基本層序	20
3. 発見遺構と出土遺物	21
4. まとめ	21
IV. 第208次発掘調査	
1. 調査経過	22
2. 調査方法と基本層序	23
3. 発見遺構と出土遺物	25
4. まとめ	25
V. 第210次発掘調査	
1. 調査に経過	28
2. 調査方法と基本層序	28
3. 発見遺構と出土遺物	29
4. まとめ	29
VI. 第211次発掘調査	
1. 調査経過	30
2. 調査方法と基本層序	30
3. 発見遺構と出土遺物	31
4. まとめ	31

<b>VII. 第212次発掘調査</b>	
1. 調査経過	32
2. 調査方法と基本層序	32
3. 発見遺構と出土遺物	33
4. まとめ	33
<b>VIII. 第213次発掘調査</b>	
1. 調査経過	35
2. 調査方法と基本層序	35
3. 発見遺構と出土遺物	36
4. まとめ	36
<b>IX. 第214次発掘調査</b>	
1. 調査経過	38
2. 調査方法と基本層序	38
3. 発見遺構と出土遺物	39
4. まとめ	39
<b>X. 第215次発掘調査</b>	
1. 調査経過	40
2. 調査方法と基本層序	41
3. 発見遺構と出土遺物	41
4. まとめ	41
<b>第3章　与兵衛沼窯跡</b>	
1. 調査経過と調査方法	42
2. 発見遺構と出土遺物	42
3. まとめ	42
<b>第4章　調査成果の普及と関連活動</b>	44

# 第1章 はじめに

## I. 郡山遺跡・仙台平野の遺跡群の調査体制

調査主体 仙台市教育委員会

調査担当 文化財課長 吉岡恭平

整備活用係 係長 長島栄一、主査 木村浩二、主任 熊谷智顕、主事 大久保弥生、  
文化財教諭 佐藤正弥、文化財教諭 菊地貴博

調査調整係 主幹兼係長 佐藤甲二、主査 荒井 格、主事 小泉博明、主事 廣瀬真理子、  
主事 及川謙作、文化財教諭 石山智之、文化財教諭 吉野信、文化財教諭 川本剛史、  
文化財教諭 佐藤洋平、文化財教諭 橋本勇人

調査指導係 主査 主浜光明、主事 水野一夫、文化財教諭 佐藤高陽

発掘調査、整理作業を適正に実施するため、「郡山遺跡・陸奥国分寺跡等調査指導委員会」を設置し、指導・助言を受けた。

委員長 今泉隆雄（東北大学名誉教授 古代史）

副委員長 進藤秋輝（前東北歴史博物館館長 考古学）

委員 国田茂弘（国立歴史民俗博物館名誉教授 考古学） 委員 桑原滋郎（多賀城市文化財保護委員会会長 考古学）

委員 須藤 誉（東北大学名誉教授 考古学） 委員 宮本長二郎（県立大学非常勤教授 建築学）

委員 渡部育子（秋田大学教育文化学部教授 古代史）

## II. 調査計画と実績

### 1. 調査計画

平成23年度に計画された調査は、国庫補助事業である「市内遺跡発掘調査」の一部として郡山遺跡、大野田官衙遺跡、愛宕山横穴墓群、与兵南沼窓跡を対象としていた。郡山遺跡については、個人住宅建築に対応した調査である。

郡山遺跡では第5次5ヶ年計画終了後に、平成17年度から補足調査を実施してきたが、平成20年度から郡山遺跡の南西1.5kmにある大野田官衙遺跡で、郡山遺跡Ⅱ期官衙と関連すると考えられる官衙跡が発見され、その範囲と性格が明らかに急務となったため、平成21年度から郡山遺跡の補足調査を休止して調査を実施してきた。また、愛宕山横穴墓群では装飾横穴墓が隣接する地点で道路改良の計画が持ち上がったため、遺構の有無を確認するための事前調査が必要となった。さらに与兵南沼窓跡では、既測量範囲外での窓跡の分布を確認するため、磁気探査を実施することが考えられた。今年度の内容については、平成23年3月4日に開催された郡山遺跡・陸奥国分寺跡等調査指導委員会において審議がなされ了解を得ていた。しかし、その後発生した東日本大震災への対応に鑑み、個人住宅建築に係わる調査に特化して事業を遂行することとなった。

発掘調査総経費は27,946,275円、国庫補助金額13,973,137円の予算で計画し、当初は郡山遺跡の個人住宅対応に2,371,205円、「仙台平野の遺跡群」として郡山遺跡以外の市域全体の個人住宅対応に7,430,000円、仙台城跡に10,516,000円とした。この後、東日本大震災により大幅に計画を変更している。ここでは以下の発掘調査の成果報告にとどめることとして調査計画とした。

調査次数	調査地区	調査予定期間	調査原因
郡山遺跡	官衙中心部など5箇所	200m <sup>2</sup> H23年5月～ H24年3月	個人住宅建築

表1 平成23年度発掘調査計画

## 2. 調査実績

郡山遺跡については、震災後の住宅建替えが増加し、個人住宅建築等で14箇所の調査を実施した。また、開発に伴う第206次調査及び第209次調査も実施し、これらは『仙台市文化財調査報告書第405集 郡山遺跡他』で報告している。

上記の発掘調査とは別に、仙台市北部の台原・小田原丘陵に位置する与兵衛沼で、水利施設の破損により新たな窓跡を十数基が沼底面より露出した。このため、与兵衛沼窓跡での緊急の遣構・遺物確認調査を実施した。

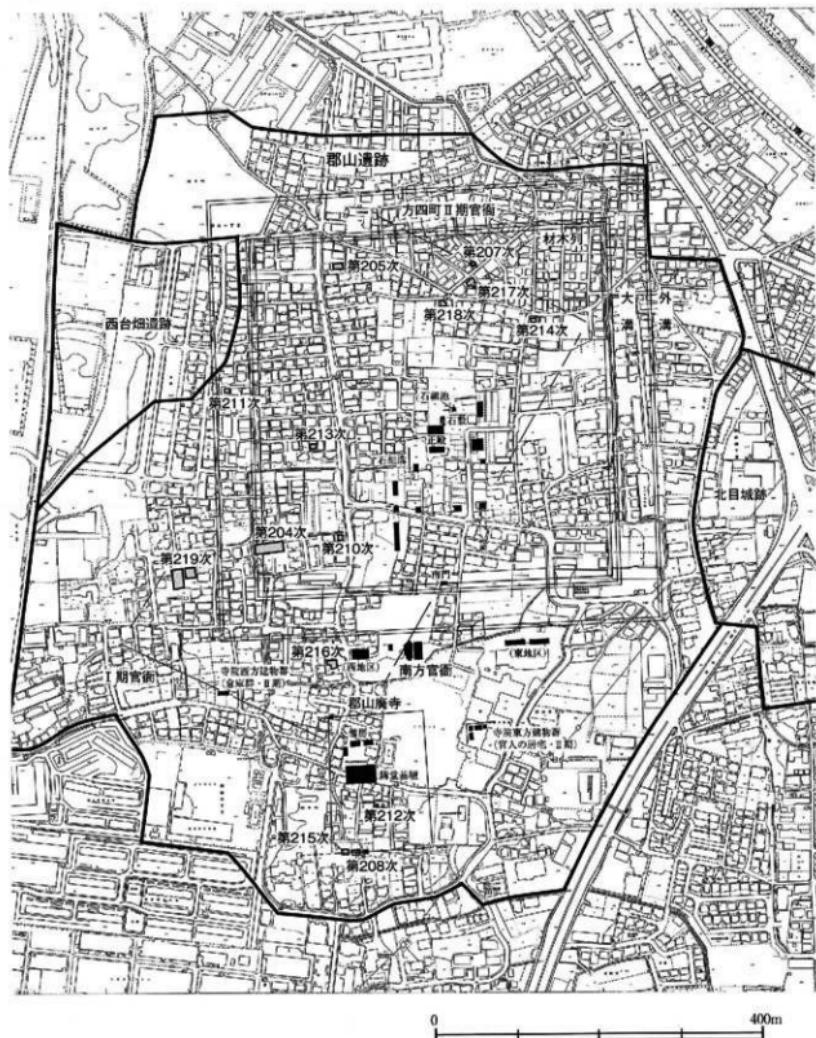
なお、東日本大震災による個人住宅の建替えに伴う発掘調査を通年で行なわざるをえなかつたため、報告書作成においては遣構・遺物の報告を速報することを主とし、年代等の検討・報告を、震災等の対応が縮小した時期に改めて行なうことで県・文化庁より了解を得ている。

遺跡名・調査次数	調査地区	調査面積	調査期間	調査原因	対応
郡山遺跡 第204次	Ⅱ期官衙南西部	—	4月12日～4月13日	個人住宅解体	工事立会調査
郡山遺跡 第205次	Ⅱ期官衙北西部	67m <sup>2</sup>	5月9日～6月6日	個人住宅建築	仙台平野の遺跡群
郡山遺跡 第207次	I期官衙北辺	6m <sup>2</sup>	6月20日～6月21日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡 第208次	郡山廃寺南部	44m <sup>2</sup>	7月13日～9月21日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡 第210次	Ⅱ期官衙南西部	12m <sup>2</sup>	9月22日～9月26日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡 第211次	Ⅱ期官衙西部	6m <sup>2</sup>	9月27日～9月29日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡 第212次	郡山廃寺中央部	2m <sup>2</sup>	10月19日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡 第213次	Ⅱ期官衙西部	6m <sup>2</sup>	11月7日～11月8日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡 第214次	Ⅱ期官衙北東部	4m <sup>2</sup>	12月5日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡 第215次	郡山廃寺南部	30m <sup>2</sup>	12月6日～12月20日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡 第216次	南方官衙西地区	56m <sup>2</sup>	1月10日～1月19日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡 第217次	I期官衙北部	22m <sup>2</sup>	1月10日～1月16日	個人住宅建築	仙台平野の遺跡群
郡山遺跡 第218次	I期官衙北部	32m <sup>2</sup>	1月30日～2月6日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
郡山遺跡 第219次他	Ⅰ期官衙南西部	90m <sup>2</sup>	3月5日～3月19日	個人住宅建築	郡山遺跡ほか調査
与兵衛沼窓跡	与兵衛沼北岸	—	6月24日、8月4日	遣構確認調査	郡山遺跡ほか調査

表2 平成23年度発掘調査実績



第1図 調査遺跡位置図



第2図 郡山遺跡全体図

## 第2章 郡山遺跡

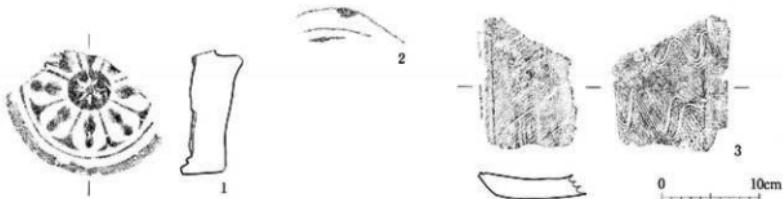
### I 第204次発掘調査

#### 1. 調査経過と調査方法

第204次調査は、宅地造成に伴い、平成23年4月6日付で仙台市太白区郡山2丁目117-1における「埋蔵文化財の取り扱いについて（協議）」が提出されたことを受けて実施した。この地点は昭和20年代に、郡山廃寺跡より出土した多くの古瓦が敷地内に運ばれ、家屋の基礎として使用されたことが確認されていた。家屋の解体及び造成工事に伴う作業に伴い、表土中に含まれる瓦が失われる可能性があったため、遺跡への影響のない工事であるが、建物基礎撤去作業時に遺物を採集することとした。調査は平成23年4月12日から翌13日まで実施した。

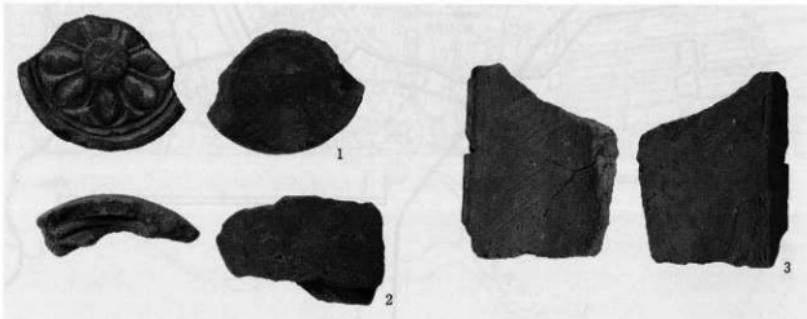
#### 2. 出土遺物

敷地内の表土層中から軒丸瓦片2点、土師器片1点、須恵器片6点の他に、丸瓦や平瓦が平箱で60箱出土し、そのうち軒丸瓦片2点と平瓦を図示した。軒丸瓦片はいずれも單弁蓮華文軒丸瓦で、瓦当の直径や間弁の割り付けの様相から、これまでの調査で出土している軒丸瓦A種と考えられる（註1）。平瓦の凸面には波状文が施されている（註2）。本来は郡山廃寺講堂跡・僧房跡付近で出土したものと考えられ、いずれも表土層中の二次堆積遺物である。



No.	登録番号	種別	器形	出土位置	法量(cm)	外寸測定	内寸測定	写真図版
1	F-105	瓦	軒丸瓦	表土	直径：(17.9) 中房径：43 厚さ：44	単弁蓮華文	瓦当側面：ケズリ→ナデ 瓦底裏面：ケズリ→ナデ	1
2	F-104	瓦	軒丸瓦	表土	直径：(17.7) 中房径：43 厚さ：20	単弁蓮華文	瓦当側面：ケズリ→ナデ 瓦底裏面：ケズリ→ナデ	2
3	G-133	瓦	平瓦	表土	幅：13.7 縄：13.7 厚さ：20	凸面：純厚ヌード→波状沈積	毎日麻	3

第3図 第204次調査出土遺物



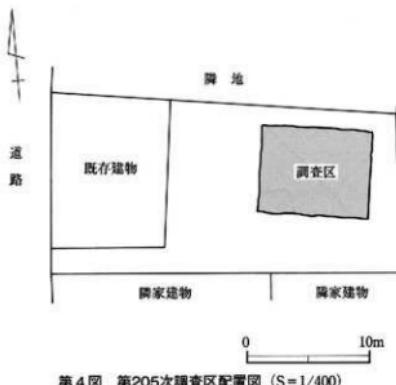
写真図版1 第204次調査出土遺物

## II 第205次発掘調査

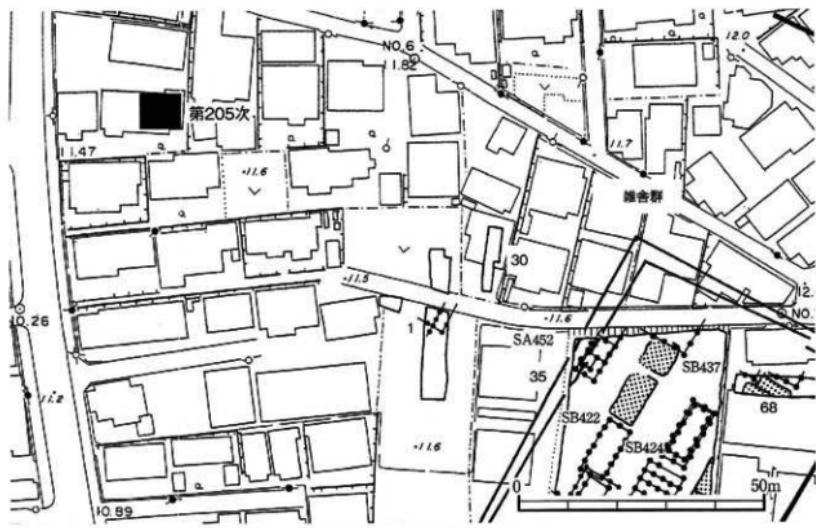
## 1. 調査経過

第205次調査は、個人住宅建築工事に伴う調査である。平成23年1月14日付で仙台市太白区郡山3丁目14-35における住宅建築に伴う発掘調査が提出された。住宅の基礎工事によって造様が削平されると想定されたため、調査を実施することとした。

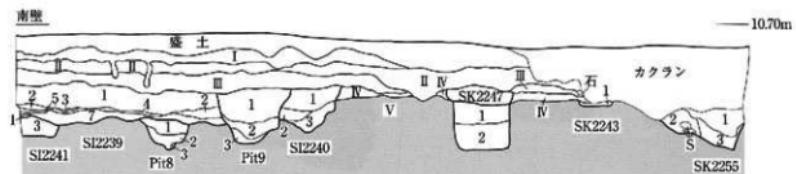
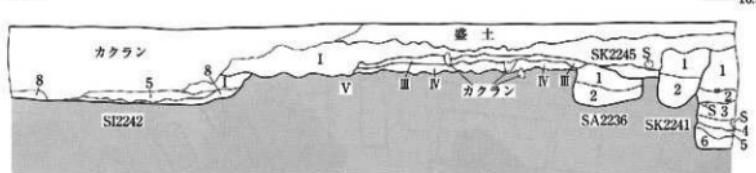
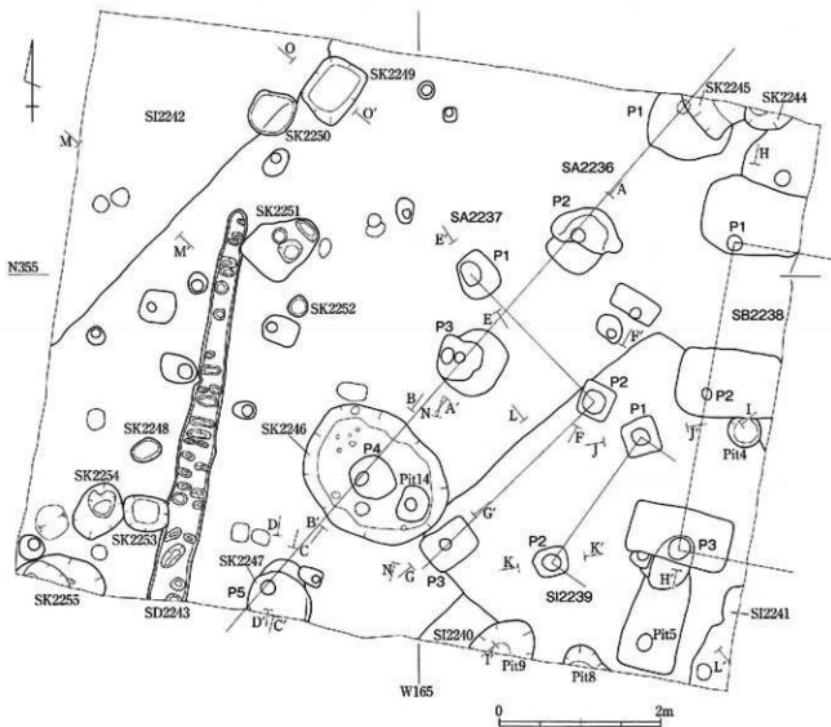
平成23年5月9日に、敷地内で住宅建築範囲の東半部を調査区として調査を開始した。遺構検出作業と精査等を実施したところ、遺構の密度が高く、住宅建築範囲の西半部にも多くの遺構が検出される可能性が濃厚となった。そのため、東部の調査を5月20日に調査を終え、埋め戻しを行った後、西半部の調査を引き継ぎ行うこととした。6月6日に西半部の調査を終了し、重機により埋め戻しを行った。



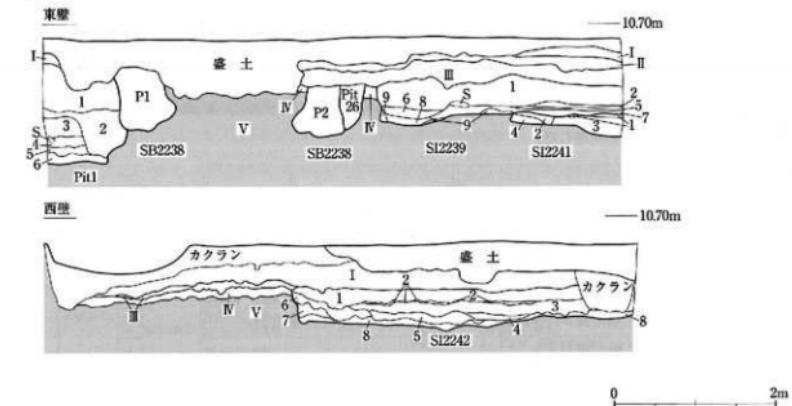
第4図 第205次調査区配置図 (S=1/400)



第5回 第205次調査区位置図



第6図 第205次調査区平・断面図 (S=1/60)



	種 類	色 調	土 質	備 考
高木解	I	暗赤土	暗赤シルト	
	II	暗灰土	暗灰シルト	
	III	10725 暗褐色	粗上質シルト	徑1~2cmの粗粒土ブロックを中心含む。
	IV	10733 黄褐色	黄土シルト	
	V	10735 暗褐色	暗土シルト	

被検名	序 位	色 調	土 質	備 考
SU2243	1	HTU3-2暗赤	粘土質シルト	約1cmのV層土プロックを少数含む。
	1	HTU3-1褐色	シルト	
SK2244	2	HTU3-2褐色	粘土質シルト	硬い-10cmのV層土プロックを多量に含む。
SK2247	1	HTU3-2褐色	粘土質シルト	約1cmの灰青色粘土質シルト土ブロックを少数、消化物跡を観察。
SK2254	1	HTU3-2褐色	粘土質シルト	約-3cmのV層土プロックを少量含む。
	1	HTU3-2褐色	粘土質シルト	約1cmのV層土プロックを少数含む。
SK2255	2	HTU3-2褐色	粘土質シルト	灰化色、土塊状を含む。
	3	HTU3-2褐色	粘土質シルト	約5cmのV層土プロックを少数含む。
Pall	1	HTU3-2褐色	粘土質シルト	灰青色粘土質シルト土ブロックを極少含む。
淡 收	2	HTU2-2褐色	粘土質シルト	灰化色粘土を多く含む。赤褐色粘土質シルトを部分的に多く含む。赤褐色を含む。
	3	HTU3-2褐色	粘土質シルト	灰青色粘土質シルト土ブロックを極少含む。
黑 里 方 土	4	HTU3-2褐色	粘土質シルト	灰褐色粘土質シルト土ブロックを含む。
5	HTU3-2褐色	粘土質シルト	灰褐色粘土質シルト土ブロックを含む。	
6	HTU3-2褐色	粘土質シルト	灰褐色粘土質シルト土ブロックを含む。	
PisB	1	HTU3-2褐色	粘土質シルト	V層土を主体とし、暗褐色シルト粘土をわずかに含む。
2	HTU3-2褐色	粘土質シルト	灰褐色粘土質シルト土ブロックを少数含む。	
3	HTU3-2褐色	粘土質シルト	灰褐色粘土を主体とし、暗褐色粘土シルト粘土を微量含む。	
PisB	1	HTU3-2褐色	粘土質シルト	黄褐色シルト土ブロックを極少含む。
2	HTU3-2褐色	粘土質シルト	灰褐色シルト土ブロック、暗褐色シルト土ブロックを含む。	
3	HTU3-2褐色	粘土質シルト	灰褐色粘土を主体とし、暗褐色粘土シルト粘土を微量含む。	
Pi26	1	HTU2-2褐色	粘土質シルト	約3cmのV層土プロックを数枚含む。

第7図 第205次調査区断面図 (S=1/60)

## 2. 調査方法と基本層序

### (1) 調査方法

住宅建築範囲の全面を調査区として設定した（南北7m×東西9m）。土置き場を考慮し、調査区を東西に分け、重機により盛土及び耕作土等を除去後、V層上面で遺構検出作業を行った。平面図、断面図は縮尺1/20で作成した。記録写真はデジタルカメラを使用した。

### (2) 基本層序

調査区は、盛土が20~50cmあり、その下に旧耕作土であるⅠ層、その下に旧表土と考えられるⅡ層がある。遺構は、V層上面で検出した。

Ⅰ層 10YR4/3にぶい黄褐色 粘土質シルト。旧耕作土。

Ⅱ層 10YR2/1黒褐色 粘土質シルト。旧表土と考えられる。

Ⅲ層 10YR5/6黄褐色 粘土質シルト。径1~2cmのIV層ブロックを中量含む。

IV層 10YR3/1黒褐色 粘土質シルト。

V層 10YR5/8黄褐色 粘土質シルト。

## 3. 発見遺構と出土遺物

今回の調査で発見された遺構は、一本柱列1列、掘立柱建物跡1棟、柱列1列、竪穴住居跡4軒、溝跡1条、土坑8基、ピットなどである。

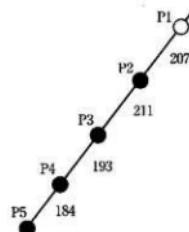
【SA2236一本柱】調査区東寄りに、北東-南西方向に並ぶ5基の柱穴を検出した。

方向は、N-35°-Eである。検出長は4.25mで、柱間寸法は184~211cm。柱痕跡はP2・P3・P4・P5で確認でき、直径は13~18cmである。柱穴掘り方は、抜き取り穴によつて全形が不明瞭なものもあるが、円形あるいは不整円形を呈している。SA2236-P2・P5には、柱抜き取り穴が伴う。SA2236-P3はP10よりも古く、SA2236-P4はSK2246上坑よりも古く、SA2236-P5はSK2247土坑よりも古い。

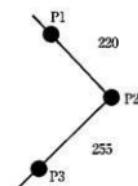
遺物は、P1・P2・P5の掘り方理土から土師器の小破片が出土している。SA2236-P3では、掘り方理土から土師器の小破片、2層中よりC-1020上師器坏（第11図1）、肩部に段があり、段の底下にカキメが施されたE-540須恵器破片（第11図2）が出土している。E-540須恵器は、外面に自然釉がかっており、割れ口の一部にわずかに立ち上がりが認められることから、平瓶などの瓶類の可能性がある。SA2236-P4からは、（頸部にくびれがなく、口縁部がやや内湾し、）内外面に黒色処理が施されたC-1021土師器鉢の口縁部破片（第11図3）、体部が緩やかに外傾し、外面の口縁部と体部の境に後に内外面に漆が塗られたC-1022上師器坏（第11図4）が出土している。C-1021とC-1022は、その特徴から関東系土師器とされるものである（註3）。

【SA2237柱列】調査区中央付近で、3基の柱穴を確認した。N-50°-Wの方向にP1、P2が並び、N-39°-Eの方向にP2、P3が並ぶ。柱間寸法はP1、P2間で220cm、P2、P3間で255cmである。柱穴掘り方は、圓丸方形や橢丸長方形を呈している。柱痕跡はP1とP3で確認でき、直径はそれぞれ13cmと30cmである。P2では、柱痕跡は確認されなかったが、柱穴掘り方よりも規模が小さく、円形に掘り込まれた遺構が認められ、柱抜き取り穴と考えられる。

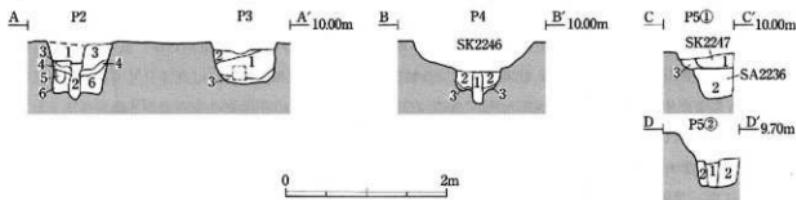
遺物は、P1の柱掘り方理土中から土師器の小破片と鉛滓、P2とP3の掘り方理土中から土師器の小破片が出土している。



第8図 SA2236模式図

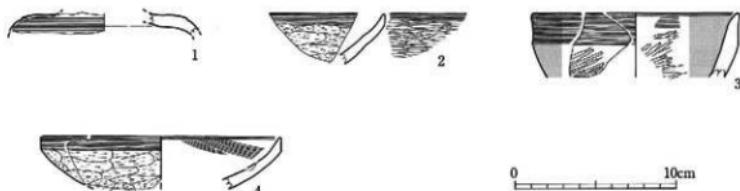


第9図 SA2237模式図



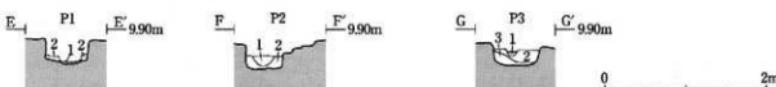
層級名	場所	色調	土質	備考
SA2236-P1	1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	V層土ブロックを多量に含む。
	2	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	V層土ブロックを多量に含む。
	1 滅蔽穴	10YR2/4 黄褐色	粘土質シルト	に赤い黄褐色粘土質シルト土ブロックを多量に含む。
	2 林床跡	10YR2/2 黒褐色	粘土	
	3	10YR2/4 黄褐色	粘土質シルト	に赤い黄褐色粘土質シルト土を少量含む。
	4	10YR2/4 黄褐色	粘土質シルト	に赤い黄褐色粘土質シルト土を少量含む。
SA2236-P2	5	10YR2/3 單褐色	粘土質シルト	V層土ブロックを多量に含む。
	6	10YR2/4 黄褐色	粘土質シルト	V層土ブロックを多量に含む。
SA2236-P3	1 林床跡	10YR2/3 單褐色	粘土質シルト	V層土ブロックを多量に含む。
	2 滅蔽方塊土	10YR2/4 黄褐色	粘土質シルト	褐色土質シルト土を少量化する。
	3	10YR2/2 單褐色	粘土質シルト	褐色土質シルト土ブロックを少量化する。
SA2236-P4	1 桂樹跡	10YR2/1 黑褐色	シルト質粘土	褐色土質シルト土ブロックを多量含む。
	2 滅蔽方塊土	10YR2/1 黑褐色	粘土質シルト	褐色土質シルト土ブロックを中量含む。
	3	10YR2/1 黑褐色	粘土質シルト	褐色土質シルト土ブロックを少量化する。
SA2236-P5	1 桂樹跡	10YR2/3 單褐色	粘土質シルト	褐色土質シルト土ブロックを少量化する。
	2 滅蔽方塊土	10YR2/3 單褐色	粘土質シルト	褐色土質シルト土ブロックを少量化する。
	3 灰化穴	10YR2/1 黑褐色	粘土質シルト	褐色土質シルト土ブロックを少量化する。

第10図 SA2236断面図 (S=1/60)



層級名	地質番号	経済	形態	出土地点	法線(cm)	外側調整	内側調整	写真添版
1-E-038	風化帯	風化	SA2236-P3	廃り方塊土		地盤: ロクロナデ 自然軟化带 例標: カキメ	地盤: ロクロナデ	4-1
2-C-030	土砂部	堆積	SA2236-P3	廃り方塊土		口縁部: ロコナデ 例標: 手持木ケズリ	口縁部: ロコナデ 例標: ミガキ	4-2
3-C-021	土砂部	堆積	SA2236-P4	廃り方塊土	口径: (12.8)	地盤: ロコナデ 例標: ミガキ 黑褐色帶	口縫部: ロコナデ 例標: ミガキ 色面延隔	4-3
4-C-1022	土砂部	堆積	SA2236-P4	廃り方塊土	口径: (14.8)	口縫部: ロコナデ 例標: ミガキ 徹土上げ	例標: ナデ 徹土上げ	4-4

第11図 SA2236出土遺物

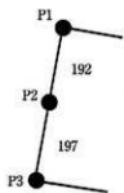


層級名	場所	色調	土質	備考
SA2237-P1	1 林床跡	10YR2/3 單褐色	粘土質シルト	V層土を若干含む。
	2 滅蔽方塊土	10YR2/3 單褐色	粘土質シルト	V層土ブロックを多く含む。小理を少量化する。
SA2237-P2	1 林床跡	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	に赤い黄褐色粘土質シルト土ブロックを少量化する。
	2 滅蔽方塊土	10YR2/4 單褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルト土ブロックを少量化する。
SA2237-P3	1 桂樹跡	10YR2/3 單褐色	粘土質シルト	灰化物を少量化する。
	2 滅蔽方塊土	10YR2/4 單褐色	粘土質シルト	V層土ブロックを少量化する。
	3 滅蔽方塊土	10YR2/4 單褐色	粘土質シルト	V層土ブロックを多量に含む。

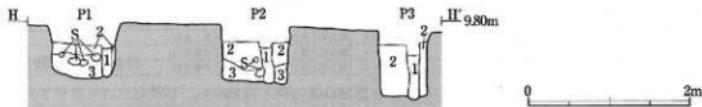
第12図 SA2237断面図 (S=1/60)

【SB2238据立柱建物跡】梁行2間もしくは2間以上（柱間寸法187～195cm、平均191cm）で、桁行は不明であるが、柱穴の検出状況から東に延びる建物跡と推定される。方向は、西桁行でN $4^{\circ}$ ・Eである。柱穴掘り方は長軸120～125cm、短軸68～93cmの隅丸長方形を呈する。柱痕跡は直径15cm程度である。柱抜き取り穴は認められない。Pit1・Pit4より古く、SI2239堅穴住居跡よりも新しい。

遺物は、それぞれの柱穴掘り方埋土中から土師器、須恵器の破片が多数と鉄製品が1点出土した。P2掘り方埋土からは、底部内面に鉱滓が薄く融着しているE-539須恵器の破片（第15図2）が2点出土した。これらは接合しないが、調整や胎土から同一個体である。器種は、坏もしくは瓶類の底部と考えられる。同じくP2から、半球形を呈し、胎土の色調が橙色を呈したC-1023土師器の破片（第15図3）や、復元径が10cmで、内面にかえりを伴うE-540須恵器蓋（第15図1）が出土した。P3の掘り方埋土中からはN-135鉄製品（第15図4）が出土した。全体の形状は不明瞭であるが、刀子あるいは鉄鎌と考えられる。

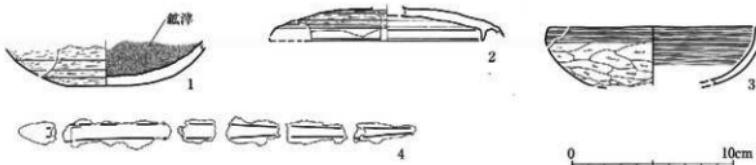


第13図 SB2238模式図



遺物名	場所	色調	土質	備考
SA2238-P1	1 柱頭跡	10YR3/2褐色	地土質シルト	V層上部、炭化物を少量含む。
	2 墓り方埋土	10YR3/2褐色	地土質シルト	V層土ブロックをやや多く、他の円錐を少量含む。
	3 墓り方埋土	10YR3/2褐色	地土質シルト	V層土ブロックを含み、炭化物を若干含む。
SA2238-P2	1 井底跡	10YR3/2褐色	地土質シルト	鉱滓の小ブロックを若干含む。
	2 墓り方埋土	10YR6/4赤い褐色	地土質シルト	V層土主体のもの（V層上よりも多い）、黒褐色土を少量含む。
	3 墓り方埋土	10YR3/2褐色	地土質シルト	V層土質シルト土ブロックを含み、半大の円錐を少量含む。
SA2238-P3	1 柱頭跡	10YR3/2褐色	地土質シルト	鉱滓を含み、炭化物を少量含む。
	2 墓り方埋土	10YR3/2褐色	地土質シルト	V層土ブロックを含み、炭化物、小判・半大の円錐を少量含む。

第14図 SB2238断面図 (S=1/60)



国際 番号	位置 番号	種別	器形	地土堆积点	法線(cm)	外観調整	内面調整	写真 番号
1	E-539	須恵器	グラスコ形灰陶器	SB2238-P1	墓り方埋土 地盤：(5.6)	ロクロナード回転ケズリ	ロクロナード 鉱滓付帯	45
2	E-540	須恵器	輪	SB2238-P2	墓り方埋土 口径：(14.6)	ロクロナード回転ケズリ	ロクロナード	46
3	C-1023	土師器	环	SB2238-P2	墓り方埋土 口径：(13.6)	口縁部：ミコナデ 両面：軽い手揉みケズリ	口縁部一全体中央：ミコナデ	48
4	N-135	鉄製品	刀子？鉄鎌？	SB2238-P3	墓り方埋土 截荷重：22.3			47

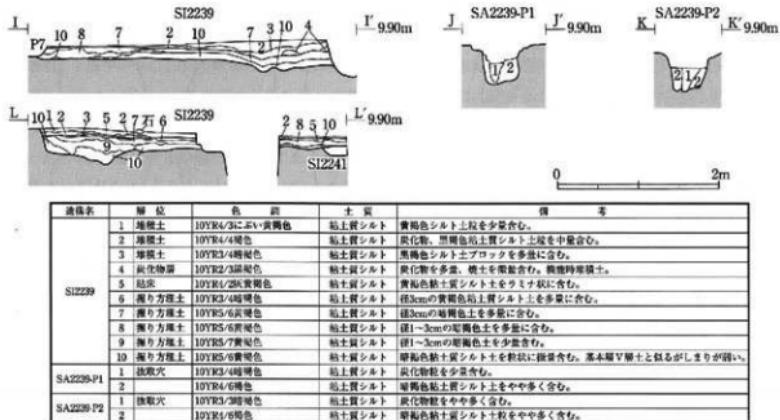
第15図 SB2238出土遺物

【SI2239堅穴住居跡】調査区の南東隅で住居跡のほぼ西半部を検出した。方向は、北西辺でN $39^{\circ}$ ・Eである。規模は北西辺3.87m、南西辺2.0m以上で、主柱穴は2基確認した。柱穴掘り方は隅丸形を呈する。検出面から床面までの残存高は2～23cmである。堆積土は10層確認され、1層は自然堆積土、2・3層は人為的埋土と考えられる。4層は、炭化物や焼土を多量に含む層で、住居内の中央部を中心に認められ、住居機能時の堆積土と考えられる。5層は貼床で、住居内の一部に分布する。6～10層は掘り方埋土である。SI2241堅穴住居跡、SI2242堅穴住居跡よりも新しく、SA2237柱列、SB2238据立柱建物跡、SK2246土坑よりも古い。

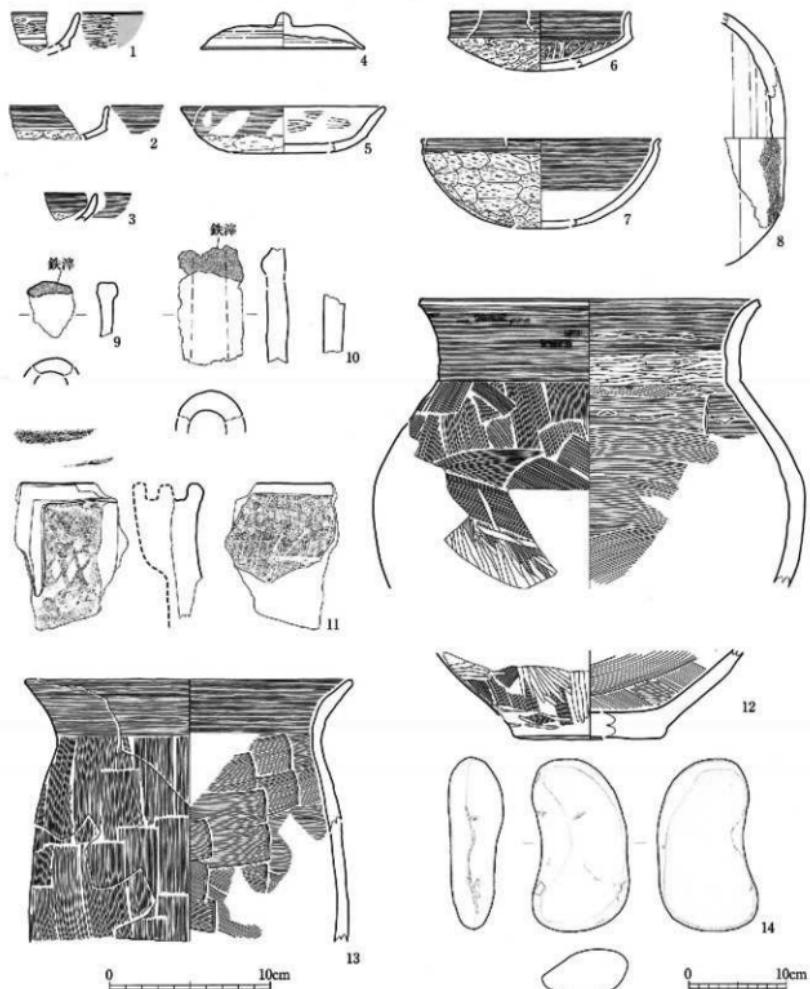
遺物は、1層中からC-1026土師器壺（第17図1）、C-1025土師器壺（第17図2）、C-1030土師器壺（第17図11a・11b）、G-134軒平瓦（第17図11）、P-61・62羽口（第17図9・10）が出土している。C-1024は、内面にナデ調整、外表面部に手持ちケズリを施し、内外面に赤彩の痕跡が見られる。C-1026は、外表面部と口縁部の境に段があり、内面にはミガキ調整と黒色処理が施されている。C-1030土師器壺は、胴張り形を呈していると考えられ、口縁部と体部の境に明瞭なくびれではなく、わずかに段があり、口縁部は外反するものである。口縁部には内外面ともヨコナデ、体部外面にはハケメ、体部内面にはヘラナデが施されている。また、内面の口縁部と体部の境には、横方向のミガキ調整が加えられている。外表面の体下部には、ハケメを磨り消すように継方向のミガキ調整が施されている。G-134軒平瓦は、型挽き重弧文軒平瓦の破片で、頸部が剥がれ落ち、平瓦部が残存している。平瓦部の凸面には、斜格子叩きが施されているのが観察できる。凹線の底面は平坦である。P-62は羽口の先端部分で、先端から2cm程に鉛滓が付着している。残存する最大長は7cmで、内径を復元すると2.3cm程度である。

炭化物層である4層からは、部分的に磨り面があるK-327石製品（第17図14）や、口径10.2cmで乳頭状のつまみを持つE-541須恵器蓋（第17図4）が出土している。E-541天井部はほぼ平坦で、口縁部にカエリはなく、口縁端部はわずかに外反するものである。

床面からは、C-1029土師器壺（第17図5）、E-542須恵器（第17図7）が出土している。C-1029土師器の体部器形は、体下部から口縁部にかけて直線的に外傾する。外表面の底部と体下部に手持ちケズリを施し、体部から口縁部にかけてヨコナデを施す。内面はミガキ調整が施されているが、磨滅が著しく、一部分しか観察できない。焼成は良好ではなく、色調は黄浅色を呈している。E-542須恵器は、破片のため器種や詳細な器形などは特定できないが、横瓶の側面部分の可能性がある。破片は、クロロ目を中心が残存しており、製作時の底部と考えられ、概ね平坦である。底部と体部の境には、格子文がほどこされている。C-1028土師器壺（第15図6）、C-1029土師器壺（第15図7）、C-1031土師器壺（第15図13）などが出土している。C-1028は、体部と底部の境に段を持ち、口縁部が直立する関東系土師器で、内外面に黒色の漆が塗布されている。内面にはほぼ全体にヨコナデが施されており、その底部には螺旋状の暗文が施されている。C-1029は、体部が半球形を呈し、口縁部が短く屈曲する関東系土師器である。



第16図 SI2239断面図 (S=1/60)



編號	器名	種別	形態	出土地点	深度 (cm)	外觀圖點	内面圖點	写真圖版
1 C-1025	土師器	环	SE2239	1號		口縫部: ヨコナデ 体部: 手持ちケズリ	口縫部: ヨガキ 黑色施釉	
2 C-1026	土師器	环	SE2239	1號		口縫部: ヨコナデ 体部: 手持ちケズリ	口縫部: ヨコナデ	
3 C-1027	土師器	环	SE2239	4號		口縫部: ヨコナデ 体部: 手持ちケズリ 遊仕けづり	口縫部: ヨコナデ 徒仕上げ	
4 E-541	鐵芯器	盒	SE2239	4號上	口径: 10.2 高さ: 2.3	失傳部: 鉄芯ケズリ 体部: ヨコナデ	失傳部: ヨコナデ 体部: ヨコロナデ	6-9
5 C-1023	土師器	环	SE2239	床面	口径: (12.6) 高さ: (2.9)	口縫部: ヨコナデ 体部: 手持ちケズリ	口縫部: ヨガキ	6-10
6 C-1028	土師器	环	SE2239	廻り方盤上	口径: (11.2) 高さ: (2.6)	口縫部: ヨコナデ 体部: 手持ちケズリ	口縫部: ヨコナデ 体部: ヨコナデ 遊仕上げ	6-12
7 C-1029	土師器	环	SE2239	廻り方盤上	口径: (14.8)	口縫部: ヨコナデ 体部: 手持ちケズリ 床面上	口縫部: ヨコナデ 体部: ヨコナデ	6-11
8 E-542	鐵芯器	环	SE2239	床面		体部: ヨコロナデ 極手文	体部: ヨコロナデ	6-13
9 P-61	土製品	环	SE2239	1號	最大長: 35			6-14
10 P-62	土製品	环	SE2239	1號	最大長: 35			6-15
11 G-134	瓦	平瓦	SE2239	1號	最大長: (6.3) 幅: (7.0) 厚さ: (1.6)	型焼き成化式西面: 斜面の複合目から出	四面: 右目板 壁面: 油	6-16
12 C-1030	土師器	壺	SE2239	1號	口径: 30.9 高さ: (9.2)	口縫部: ハマモチヨコナデ 体部: ハマモチヨコナデ	口縫部: ヨコナデ 体部: ヨコナデ	5-1
13 C-1031	土師器	壺	SE2239	廻り方盤上	口径: (30.2)	口縫部: ヨコナデ 体部: ハケメ	口縫部: ヨコナデ 体部: ヘラナデ	5-2
14 K-337	石製品	环	SE2239	4號	全長: 17.2 幅: 9.7 厚さ: 1.8			5-3

第117図 SI2239出土遺物

**[SI2240堅穴住居跡]** 調査区の南東隅で住居跡の北西辺の一部を検出した。全体の規模は不明である。堆積土は3層に分層される。SI2239堅穴住居跡、Pit9よりも古い。遺物は、土師器壺の小破片が出土している。

**[SI2241堅穴住居跡]** 調査区の南東隅で住居跡の西辺を検出した。全体の規模は不明である。SI2239堅穴住居跡よりも古い。調査区東壁及び南壁で床面を1層確認した。遺物は、掘り方埋土中から土師器の小破片が出土している。

**[SI2242堅穴住居跡]** 調査区の北西隅で住居跡の南東辺の一部を検出した。南東辺の検出長は5.27mである。主柱穴は検出されなかった。SK2249、SK2250土坑と重複し、それよりも古い。遺物は、掘り方埋土中からC-1033土師器壺（第19図1）の他、須恵器壺の部体小破片が出土している。

**[SD2243溝跡]** 調査区南西部で検出した。検出長は4.95mである。上幅24~47cm、下幅19~41cm、深さ4~6cmで、断面形は浅い皿型を呈する。底面には多数の小さい突起があり、鋸歯の痕跡と推定される。堆積土は1層である。遺物は出土していない。

**[SK2244土坑]** 調査区北東部隅で一部を検出した。全体の形状は不明である。深さは、調査区北壁断面で72cmである。壁面は直立に立ち上がる。堆積土は2層である。SK2245土坑、Pit1よりも新しい。遺物は出土していない。

**[SK2245土坑]** 調査区北東部隅で一部を検出した。全体の形状は不明である。深さは調査区北壁断面で18cmである。壁面は、直線的に傾斜する。堆積土は1層である。遺物は出土していない。

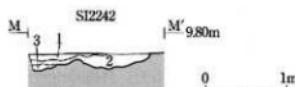
**[SK2246土坑]** 調査区南部中央で検出した。平面形は楕円形で、長軸191cm、短軸150cm、検出面からの深さは42cmである。壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は皿状で、底面は鉢鉢状である。底面に直径5~10cmの穴が複数認められ、植物の根の痕跡と考えられる。堆積土は1層である。SA2236-P4、Pit14と重複し、それよりも新しい。

遺物は、1層中からC-1035土師器壺の破片（第21図1）、E-572須恵器不明品（第21図2）、E-545須恵器壺の破片（第21図3）が出土している。C-1035土師器壺は、部体と口縁部の境に段があり、口縁部はやや外湾しながら直立するものである。調整は、口縁部の内外面ともにナデ調整、部体は内面にミガキ調整、外面に手持ちケズリが施されている。E-572須恵器は全体の器形は不明であるが、脚部片である可能性が考えられる。E-545須恵器壺は、頸部半ばに1条の沈線があり、その上下に波状文が施されている。口縁端部の器形は、わずかに外側に張り出すものである。

**[SK2247土坑]** 調査区南部中央で一部を検出した。南北に長軸を持つ楕円形の土坑と考えられる。深さは南壁で27cmである。壁面は垂直気味に立ち上がる。堆積土は1層である。SA2236-P5柱切り取り穴と重複し、それよりも新しい。遺物は出土していない。

**[SK2248土坑]** 調査区南西部で検出した。長軸37cm、短軸26cmの楕円形を呈する。堆積土は1層である。遺物は、1層中から土師器壺の部体の破片が出土している。

**[SK2249土坑]** 調査区北西部で検出した。長軸78cm、短軸62cmの隅丸方形で、深さは20cmである。堆積土は1層である。SI2242堅穴住居跡よ



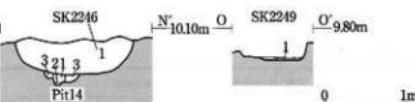
遺物名	層位	色調	土質	備考
1	海通り 堆積土	10YR5/2黒褐色	粘土質シルト	黄褐色粘土質シルト土壁全体に多く含む。
2	海通り 堆積土	10YR4/4褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルト土壁を微量含む。
3	海通り 堆積土	10YR4/4褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルト土壁を多く含む。

第18図 SI2242断面図 (S=1/60)



遺物名	登録番号	種別	器形	出土位置	測量 (cm)	外観調査	内部調査	写真
1	C-1033	土師器	平	SI2242 掘り方 埋土		口縁部：ヨコナギ 全体：タグリ 底部：ササヒ	口縁部：ヨコナギ 全体：タグリ 底部：ササヒ	54

第19図 SI2242出土遺物



遺物名	層位	色調	土質	備考
SK2246	1	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	V層土粒～ブロックを多量含む。
SK2249	1	10YR4/2黒褐色	粘土質シルト	同色粘土質シルトブロック、堅化歯を多量含む。
Pit14	2 植生跡	10YR5/6褐色	粘土質シルト	
	3 植生跡	10YR5/6褐色	粘土質シルト	
	4 海通り	10YR4/4褐色	粘土質シルト	V層土ブロックを多量に含む。

第20図 SK2246・SK2249断面図 (S=1/60)

りも新しい。

遺物は、1層中からC-1034土師器坏（第21図4）が出土している。器形は、底部から口縁部にかけて弧を描くような半球形を呈する。外面の口縁部にヨコナデ、体部に手持ちケズリを施し、内面にはミガキ調整と黒色処理が施されている。

【SK2250土坑】調査区北西部で検出した。長軸54cm、短軸53cmの兩丸方形で、深さは11cmである。堆積土は1層である。SI2242堅穴住跡よりも新しい。遺物は出土していない。

【SK2251土坑】調査区北西部で検出した。長軸80cmの不整形の土坑で、深さは4cmである。底面には凹凸がある。堆積土は1層である。

遺物は、検出面でC-1041土師器坏（第21図5）が出土した。C-1041の器形は半球形で、口縁部と体部の境に稜があり、口縁部が短く直立する。胎土の色調は橙色を呈する。器形の特徴から、関東系土師器とされるものである。その他、1層から上師器の小破片、須恵器の小破片、鉢溝が出土している。

【SK2252土坑】調査区北西部で検出した。長軸27cm、短軸24cmの不整形の土坑である。遺物は、堆積土1層中から非黒クロト土師器の小破片が少量出土している。

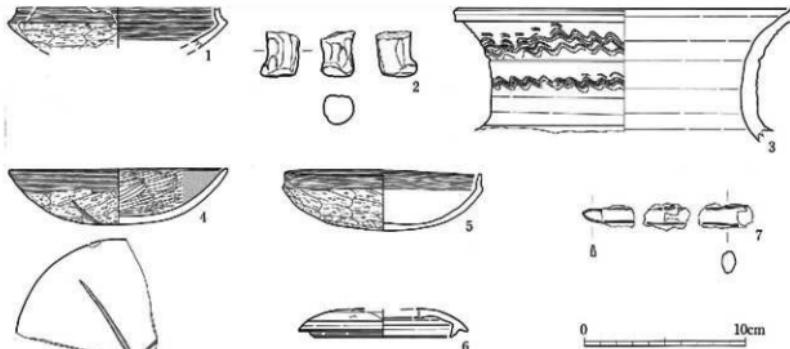
【SK2253土坑】調査区南西部で検出した。長軸56cm、短軸44cmの兩丸方形の梢円形を呈する。堆積土は1層である。SD2243溝跡よりも新しい。遺物は、1層中から土師器の小破片が少量出土している。

【SK2254土坑】調査区南西部で検出した。長軸72cm、短軸54cmの梢円形を呈する。堆積土は1層である。

遺物は、1層中から土師器壺の口縁部と体部の破片が少量出土している。

【SK2255土坑】調査区南西部隅で一部を検出した。全体の形状は不明である。深さは、南壁断面で50cm程である。壁は直線的に傾斜するが、北壁中に段がある。堆積土は3層確認した。

遺物は、1層中から土師器壺の体部の小破片が出土し、3層中から土師器壺の底部の破片の他、遺構底面から復元径10cm、内面にかえりがあるE-544須恵器蓋（第21図6）と、残存長9.9cmのN-136刀子（第21図7）が出土している。

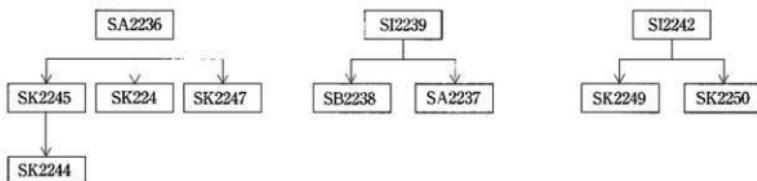


調査番号	登録番号	種類	器形	出土地点	法量(cm)	外周測定	内面測定	写真図版
1 C-1038	上師器	坏	SK2246	1層		口縁部:ヨコナデ 体部:手持ちケズリ 傷仕上げ	口縁部:ヨコナデ 体部:上げ	5-6
2 E-542	須恵器	器形片	SK2246	1層		輪底: 手ナデ 脚仕上げ	口縁部:ヨコナデ 体部:上げ	5-6
3 T-545	須恵器	蓋	SK2246	1層	口径:(20.8)	口縁部-側面: ロコナデ 両端:板状式丸 花邊有	口縁部-裏面: ヨクロナデ	5-10
4 C-1043	土師器	坏	SK2249	1層	口径:(13.5) 高さ:(3.4)	口縁部:ヨコナデ 体部:手持ちケズリ 裏面:へり組み(×)	ミガキ	5-7
5 C-1041	土師器	坏	SK2251	3層	口径:12.3 高さ:3.6	口縁部:ヨコナデ 体部:手持ちケズリ	ヨコナデ	5-8
6 E-544	須恵器	蓋	SK2255	底面	(10.6)	口縁部-天井縁: ヨコナデ 天井部: 手ぬきケズリ	天井縁-口縁部: ヨクロナデ	5-9
7 N-136	復製品	刀子	SK2255	底面	残存長:8.9			5-11

第21図 SK2246・SK2249・SK2251・SK2252出土遺物

#### 4.まとめ

第205次調査で発見された主な遺構の重複関係は、次の通りである。なお、並列関係は必ずしも同時期を示すものではない。ここでは、SA2236一本柱列とSI2239堅穴住居跡出土遺物についてまとめ、SI2239堅穴住居跡とⅡ期官衙に関連すると考えられるSB2238掘立柱建物跡の年代、遺物については、第1章Ⅱ-2で触れたように、別稿として改めて検討する予定でいる。



##### (1) SA2236一本柱列について

SA2236一本柱列は、遺跡南西部で検出されているⅠ期官衙の西辺と考えられる材木列（第99次調査：SA1430材木列）や溝跡（第103次調査：SD1509溝跡）の延長付近に位置していることから、Ⅰ期官衙に関連する遺構と考えられる。SA2236一本柱列もその延長となる可能性が考えられるが、周辺の調査を継続し、遺構の状況を詳しく検討し、検証を行なっていきたいと思う。

##### (2) SI2239堅穴住居跡出土G-134軒平瓦について（第17図-11、写真図版4-16）

SI2239堅穴住居跡1層中から出土したG-134軒平瓦は、頭部が剥がれ、平瓦部の格子叩き目が露出しているものである。格子叩きの平瓦は、郡山廃寺跡とその周辺では出土しておらず、官衙内の遺構から出土しているが、数量は極めて少ない（註4）。斜格子叩きの平瓦が、Ⅱ期官衙に関連するSB2238掘立柱建物より古いSI2239堅穴住居跡の堆積土中から出土しているということは、Ⅰ期官衙の時期に軒平瓦が遺跡内に持ち込まれる要因があった可能性がより高まったことを示している。



1. 西半部全景（南から）



2. 東半部全景（南から）



3. SB2238（南から）



4. SB2238 P1断面（西から）



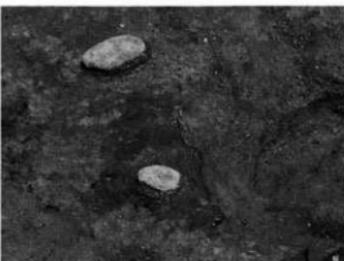
5. SB2238 P2断面（西から）



6. SB2238 P3断面（西から）



7. SI2239床面状況（南から）



8. SI2239遺物（E-541）出土状況

写真図版2 調査区全景・SB2238・SI2239



1. SI2239 P1断面（南から）



2. SI2239 P2断面（南から）



3. SA2236 · SA2237検出状況（南西から）



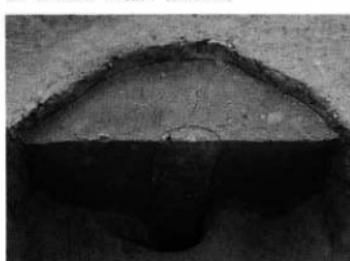
4. SA2236 P2抜取穴断面（北西から）



5. SA2236 P2断面（北西から）



6. SA2236 P3断面（北西から）

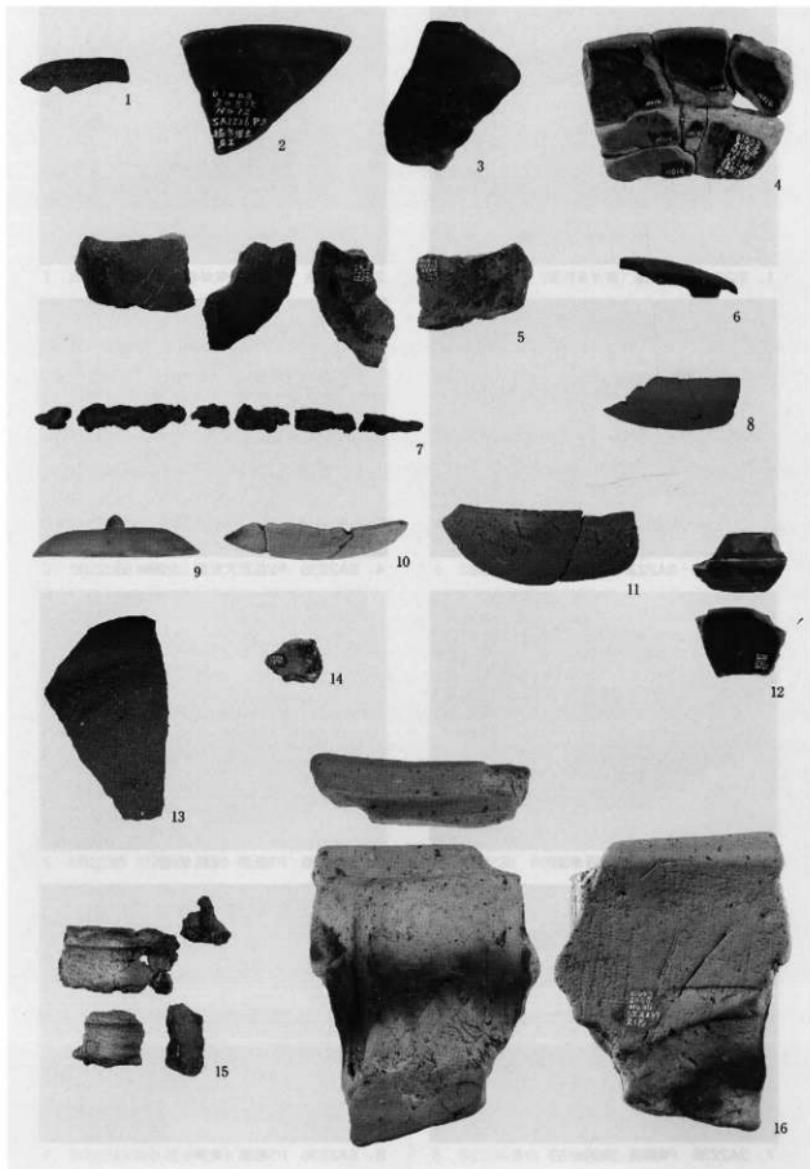


7. SA2236 P4断面（南西から）

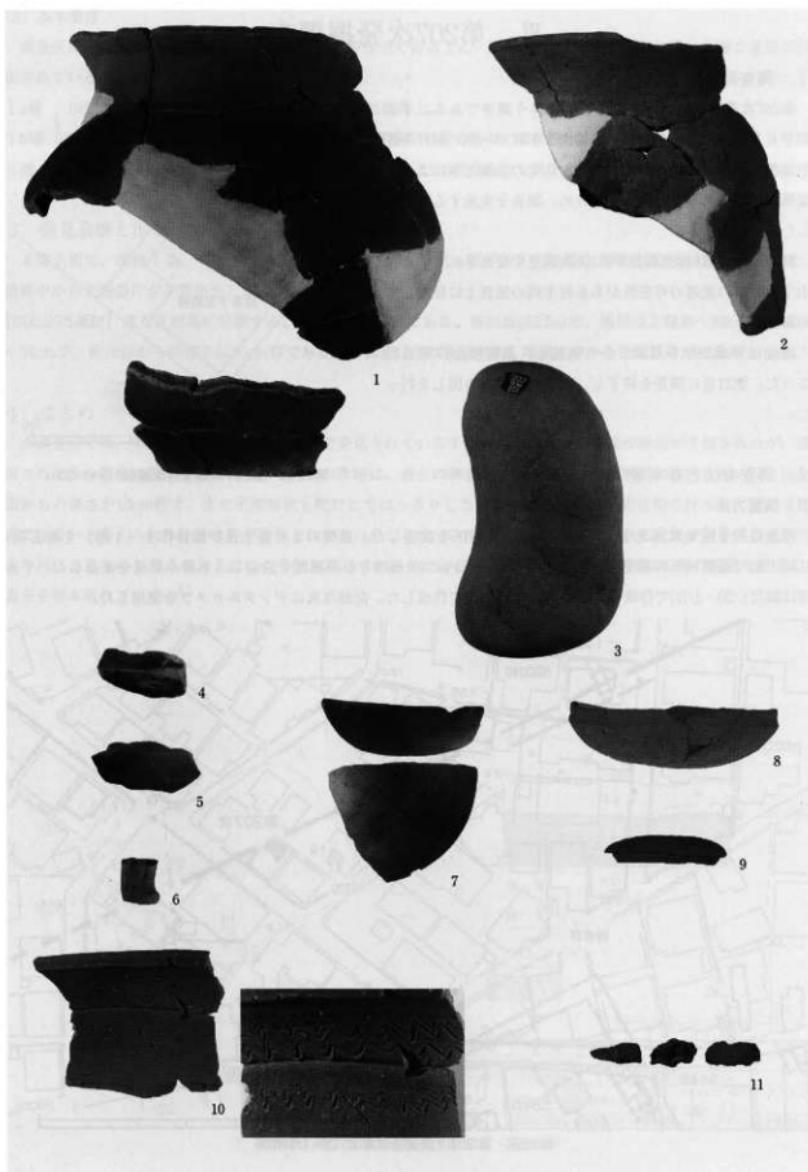


8. SA2236 P5断面（東から）

写真図版3 SI2239 · SA2236 · SA2237



写真図版4 第205次調査区出土遺物



写真図版5 第205次調査区出土遺物

### III. 第207次発掘調査

## 1. 調查経過

第207次調査は個人住宅建築工事に伴う調査である。平成23年6月6日付で仙台市太白区郡山3丁目35-28における住宅建築に伴う発掘届が提出された。住宅の基礎工事によって遺構が削平されると想定されたため、調査を実施することとした。

調査地点は第148次調査や第156次調査で発見されている郡山I期官衙の北辺の可能性がある材木列の延長上に位置している。

調査は平成23年6月20日から実施し、遺構検出作業を行なった。翌21日に調査を終了し、重機により埋め戻しを行った。

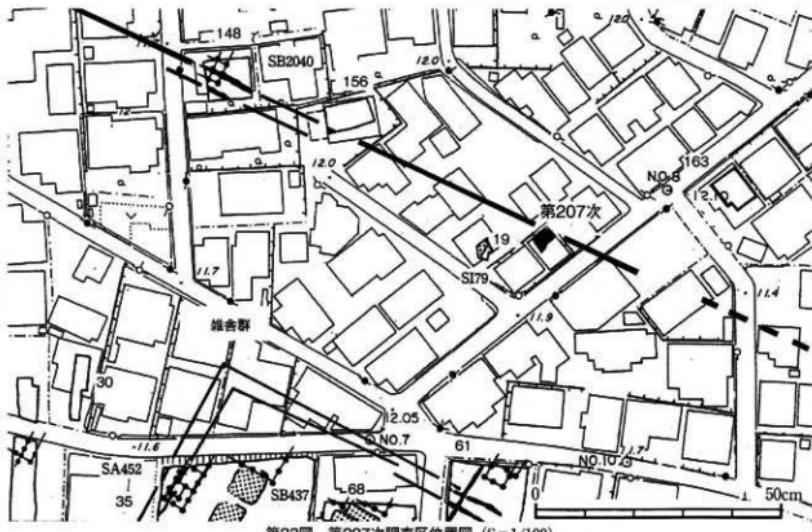


第22回 第207次調査区配置図 (S=1/200)

## 2. 調査方法と基本層序

### (1) 調查方法

建築建設予定地に南北2m×東西3.2mの調査区を設定した。重機により盛土及び畑耕作土（I層）を除去後、II層上面で造構検出作業を行った。また、調査区内に40cm四方の深掘区を設定し、下層の状況を確認した。平面図は縮尺1/20・1/50で作成し、断面図は縮尺1/20で作成した。記録写真はデジタルカメラを使用した。



第23図 第207次調査区位置図 (S=1/100)

## (2) 基本層序

調査区は、盛土が約25~50cmあり、その下に耕作土であるI a、I b層があり、さらにその下のII層で遺構が検出されている。

I a層 10YR4/2灰黄褐色シルト。層厚0~20cm。畑耕作土。

I b層 10YR3/2黒褐色シルト。層厚35~50cm。土師器片が多く出土。畑耕作土。

II層 10YR4/6褐色粘土質シルト。層厚45cm以上。10YR3/2黒褐色粘土質シルト土ブロックをまだらに含む。

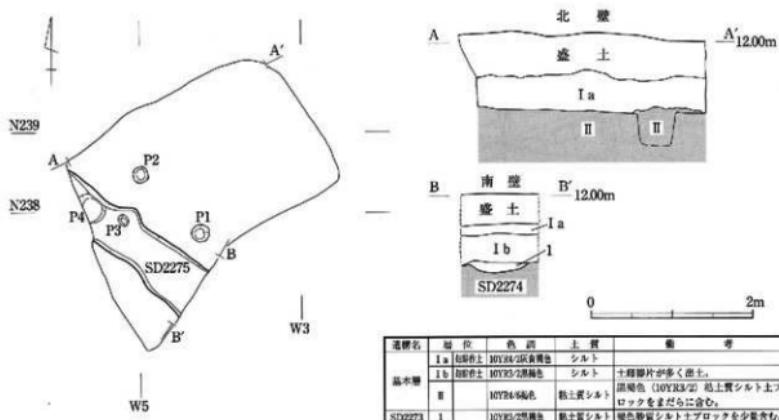
## 3. 発見遺構と出土遺物

II層上面で、溝跡1条、ピット4基を検出した。遺物は、I b層中より土師器片、須恵器片が出土した。また、遺構中から土師器片が少量出土した。

【SD2275溝跡】調査区西部に位置する。方向はN-31°-Wである。検出長は2.2mで、規模は上幅49~63cm、下幅39~54cmで、検出面からの深さは10cm程である。断面形は皿状を呈する。堆積土中から土師器片が少量出土した。

## 4. まとめ

本調査区では、第148次調査や第156次調査で発見されているⅠ期官衙の材木列の延長の検出が予想されたが、検出された主な遺構は溝跡1条のみである。この溝跡は、過去の調査で検出されている材木列の方向と近いが、検出面からの深さが10cm程で、また平面形状も蛇行してはっきりしないことから、郡山Ⅰ期官衙の材木列に関わる遺構ではないと考えられる。材木列が検出されなかつたことについては、材木列の想定された位置が調査区の北西端より外にあるものと考えておきたい。今後も周辺での調査がある際には周辺での調査や想定位置の確認を踏まえ、調査を積み重ねていく。



第24図 第207次調査区平・断面図 (S=1/60)

## IV. 第208次発掘調査

### 1. 調査経過

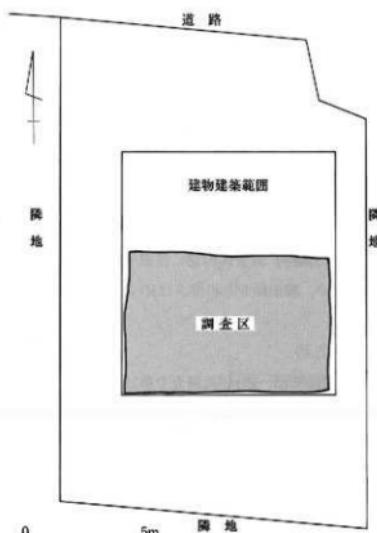
第208次調査は個人住宅建築工事に伴う調査である。平成23年5月24日付で仙台市太白区郡山5丁目148-35における住宅建築に伴う発掘届が提出された。住宅建築における杭打ち工事によって遺構が削平されると想定されたため、調査を実施することとした。調査地点は、郡山遺跡の西北部・郡山廃寺南部に位置する。

調査は平成23年7月13日から実施した。調査区の中で、郡山廃寺南辺に関連する材木列を検出したため、その保存協議を行なった。7月28日に、現地において施工主代理人ならびに施工業者と遺構保存について協議したところ、遺構への杭打ちを回避する設計変更の承諾が得られた。そのため、材木列の位置を明示した上で埋め戻しを行なった。工事は9月20、21日に行われ、材木列を避けて行なわれたことを確認し、調査を終了した。

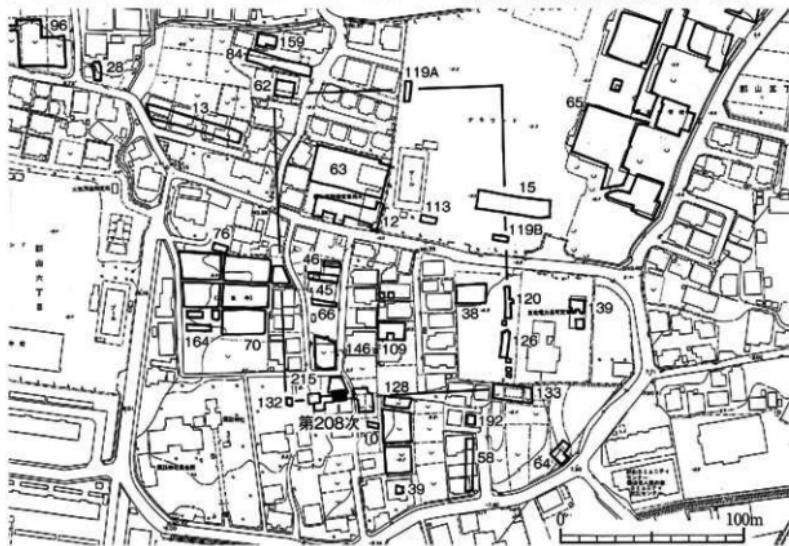
### 2. 調査方法と基本層序

#### (1) 調査方法

住宅建築範囲の北半部は、第146次調査で遺跡の範囲確



第25図 第208次調査区配置図 (S=1/200)



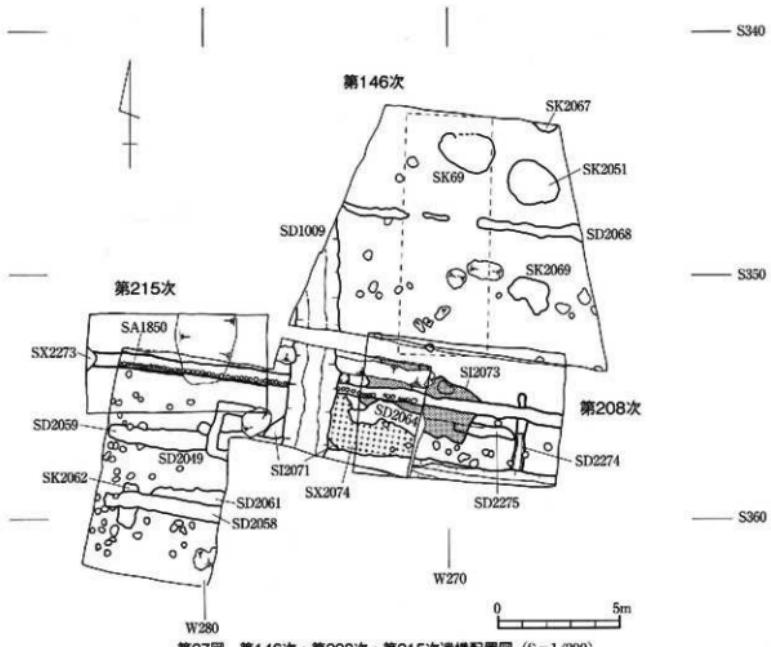
第26図 第208次調査区位置図

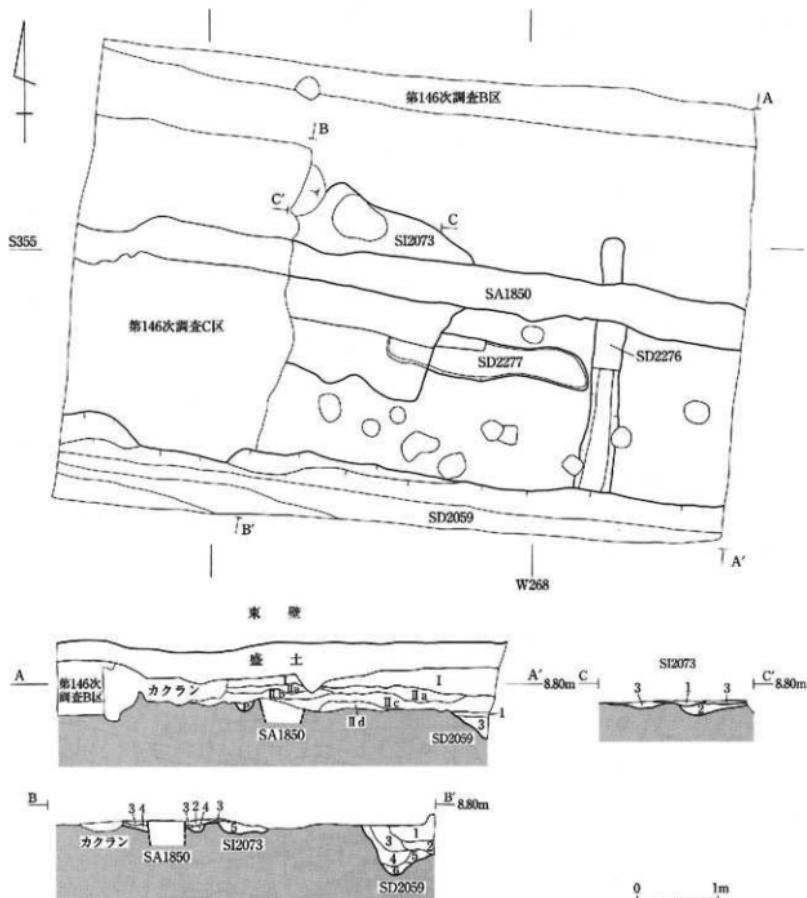
認査を行っており、今回の調査は未調査部分の南半部を対象とした。建築範囲内にそれぞれ南北5.5m×東西8mの調査区を設定し、重機により盛土およびI、II層を除去後、III層上面で遺構検出作業を行った。それ以外の遺構について調査を行い、記録保存を行った。平・断面図は縮尺1/20で作製した。記録写真はデジタルカメラで撮影した。

## (2) 基本層序

調査区は、盛土が約30cmあり、その下に旧耕作土であるI層がある。さらにその下に遺構上面を削平し、旧耕作土と混じりあったIIa・IIb・IIc・IId層があり、その下のIII層で遺構が検出されている。

- I層 10YR3/4暗褐色粘土質シルト。層厚10~35cm。炭化物をごく少量含む。旧畑耕作土。
- IIa層 10YR4/4褐色粘土質シルト。層厚5~15cm。暗褐色粘土質シルト土をブロック状に含む。
- IIb層 10YR4/4褐色粘土質シルト。層厚0~15cm。黄褐色粘土質シルト土を粒~ブロック状にやや多く含む。
- IIc層 10YR3/3暗褐色粘土質シルト。層厚0~20cm。黄褐色粘土質シルト土を粒状に微量含む。
- IID層 10YR3/4暗褐色粘土質シルト。層厚0~15cm。黒褐色粘土質シルト土をブロック状に少量、黄褐色粘土質シルト土を粒状に少量含む。
- III層 10YR5/6黄褐色粘土質シルト。にぶい黄褐色粘土質シルト土を粒~ブロック状にやや多く含む。





層位	色調	土質	備考	
			SI2073	SD2059
基本層	I 10YR2/4暗褐色	粘土質シルト	炭化物を少量含む。	
	IIa 10YR2/4褐色	粘土質シルト	深褐色粘土質シルト土をブロック状に含む。	
	IIb 10YR2/4褐色	粘土質シルト	深褐色粘土質シルト土を粒状～ブロック状にやや多量に含む。	
	IIc 10YR2/3H黄褐色	粘土質シルト	深褐色粘土質シルト土を粒状に含む。	
	Id 10YR2/8黄褐色	粘土質シルト	黒褐色粘土質シルト土をブロック状に少量、黄褐色粘土質シルト土を粒状に少量含む。	
	E 10YR2/6褐色	粘土質シルト	において黄褐色粘土質シルト土を粒～ブロック状にやや多量に含む。	
過渡層	I 10YR2/4暗褐色	粘土質シルト	黄褐色粘土質シルト土を粒状にやや多量に含む。	
	II 10YR2/6褐色	粘土質シルト	粘土質シルト土を粒状に含む。被土粒を少量含む。	
	2 10YR2/3H黄褐色	粘土質シルト		
	3 10YR2/4暗褐色	粘土質シルト		
	4 10YR2/4褐色	粘土質シルト	褐色粘土質シルト土をブロック状に多量に含む。	
	5 10YR2/3暗褐色	粘土質シルト	褐色粘土質シルト土を粒状に含む。	
SD2059	1 10YR2/3暗褐色	粘土質シルト		
	2 10YR2/3暗褐色	粘土質シルト	褐色粘土質シルト土を粒～ブロック状に含む。	
	3 10YR2/4暗褐色	粘土質シルト	褐色粘土質シルト土をブロック状に少量含む。	
	4 10YR2/3暗褐色	粘土質シルト	褐色粘土質シルト土を多量に含む。	
	5 10YR2/4暗褐色	粘土質シルト	褐色粘土質シルト土をブロック状に少量に含む。	
	6 10YR2/4H黃褐色	粘土質シルト	黄褐色粘土質シルト土をブロック状に多量に含む。	

第28図 第208次調査区平・断面図 (S=1/60)

### 3. 発見遺構と出土遺物

材木列1列、竪穴住居跡1軒、溝跡3条、ピット11基を検出した。遺物は、土師器、須恵器、瓦片などが出土した。

**【SA1850材木列】**調査区中央で検出した。第146次調査C・D区で検出されている材木列の延長である。検出長は8.35mで、そのうち5.7mを今回の調査で検出した。SI2073竪穴住居跡、SD2274溝跡と重複し、いずれよりも新しい。この材木列は、郡山廃寺の南辺となる材木列であることが判明している。協議の結果、保存が団されることとなつたため、遺構の検出に留め、掘り込み等は行わなかった。遺物は、堆積土最上層から土師器壺の体部の小破片が出土している。

**【SI2073竪穴住居跡】**調査区中央で検出した竪穴住居跡で、第146次調査で一部を検出している。規模は、南北22m、東西2.0m以上である。堆積土は5層に分層される。1、2層は、褐色～にぶい黄褐色の粘土質シルトで、自然堆積土と考えられる。3層は、しまりのある暗褐色の粘土質シルトで、貼床とみられる。4、5層は褐色～暗褐色の粘土質シルトで、掘り方埋土と見られる。SA1850材木列、SD2275溝跡と重複しており、SD2275溝跡より新しく、SA1850材木列よりも古い。遺物は出土していない。

**【SD2059溝跡】**調査区南端で検出した東西方向の溝跡で、北側上端のみを検出した。第146次調査で一部が検出されており、その延長にあたる。検出長は8.25mで、そのうち5.9mを今回の調査で検出した。規模は、上幅92cm以上、下幅15～35cm、検出面からの深さは32～60cmである。断面形はV字状で、北側面は底面から直線的に外傾し、南壁は北壁よりも緩やかに外傾している。SD2274溝跡と重複し、それより新しい。

遺物は、1層から土師器片、須恵器片、丸瓦片、平瓦片が出土している。平瓦G-135（第29図3）は、凸面を繩叩き、凹面に布目痕が残る。平瓦G-136（第29図4）は、凸面は叩き目を丁寧に磨り消し、凹面には布目痕が残る。平瓦G-137（第29図5）は、凸面に縦方向のヘラケズリ調整、凹面には布目痕が残り、側面に糸切り痕が見られる。丸瓦F-107（第29図6）は、凸面繩叩きの後に縦方向のヘラケズリが施され、凹面には布目痕が見られる。側面はヘラケズリ調整である。2層からは土師器壺の小破片が出土している。

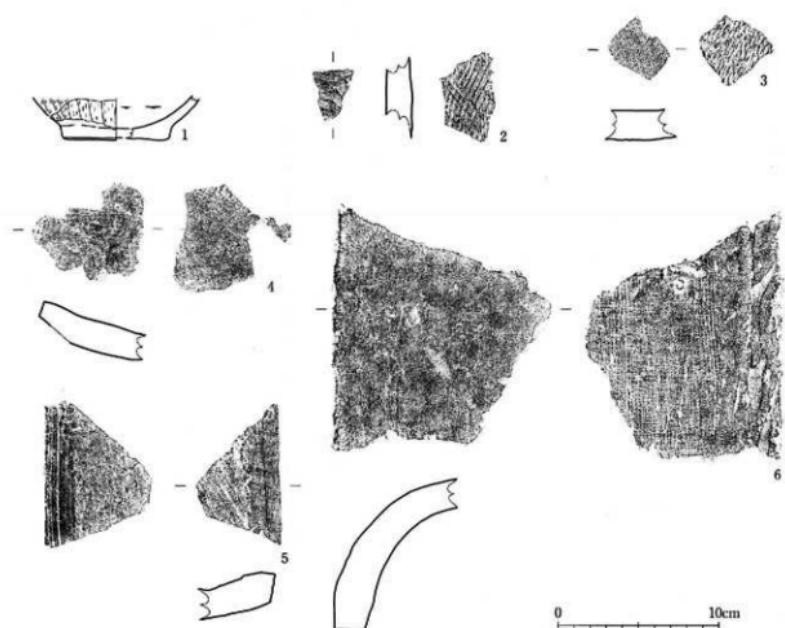
**【SD2276溝跡】**調査区東側で検出した南北方向の溝跡である。検出長は3.1mである。規模は上幅35～45cm、下幅20～30cm、検出面からの深さは11cmである。断面形は浅い皿状を呈し、堆積土は1層である。SA1850材木列、P7、P8と重複しており、いずれよりも古い。遺物は出土していない。

**【SD2277溝跡】**調査区中央で検出した東西方向の溝跡である。検出長は2.5mである。規模は上幅35～50cm、下幅30～40cm、検出面からの深さは6cmである。断面形は浅い皿状を呈し、堆積土は1層である。SI2073竪穴住居跡と重複し、それよりも古い。

遺物は出土していない。

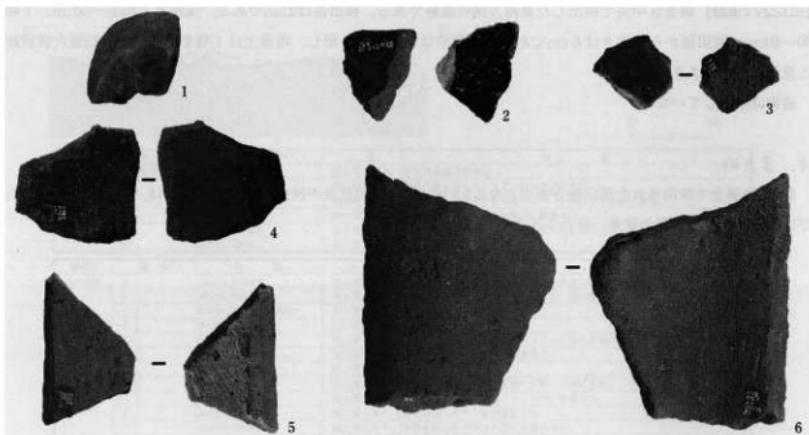
### 4. まとめ

第146次調査で検出された郡山廃寺南辺となるSA1850材木列の延長が検出された。材木列は、施工主代理人ならびに施工業者との協議の結果、保存されることとなつた。



No.	登錄番号	種別	形態	出土地点	法量 (cm)	外面調査	内部調査	写真回数
1	C.1113	土縫器	甕	T層	幅:6.6	外縁:手打ちヘラケズリ	断面により不明	4-1
2	E.568	土縫器	甕	T層	幅:4.3 厚:5.1 厚さ:1.6	外縁:手打ち凹き	断面:薄日	4-2
3	G.135	瓦	平瓦	SD2075	1 幅:4.3 厚:4.5 厚さ:1.9	外縁:溝凹き	断面:薄日直	4-3
4	G.136	瓦	平瓦	SD2075	1 幅:4.3 厚:5.0 厚さ:1.8	外縁:溝消	断面:薄日直	4-4
5	G.137	瓦	平瓦	SD2075	1 幅:8.6 厚:5.2 厚さ:1.9	外縁:ケズリ 滑面:未切丸	断面:薄日直	4-5
6	F.107	瓦	丸瓦	SD2075	1 幅:15.2 厚:12.1 厚さ:1.7~2.4	外縁:溝凹き→ヘラナメ 滑面:ケズリ	断面:薄日直	4-6

第29図 第208次調査区出土遺物



写真図版6 第208次調査区出土遺物



1. 調査区全景（西から）



2. 東壁断面（北西から）



3. SD2059溝跡（西から）

写真図版 7 第208次調査区

## V. 郡山遺跡第210次発掘調査

### 1. 調査経過

第210次調査は個人住宅建築工事に伴う調査である。平成23年8月24日付で仙台市太白区郡山2丁目119-4における住宅建築に伴う発掘届が提出された。住宅の基礎工事によって遺構が削平されると想定されたため、調査を実施することとした。

調査は平成23年9月22日から実施し、遺構検出作業を行なった。9月25日に調査を終了し、翌26日に重機により埋め戻しを行なった。

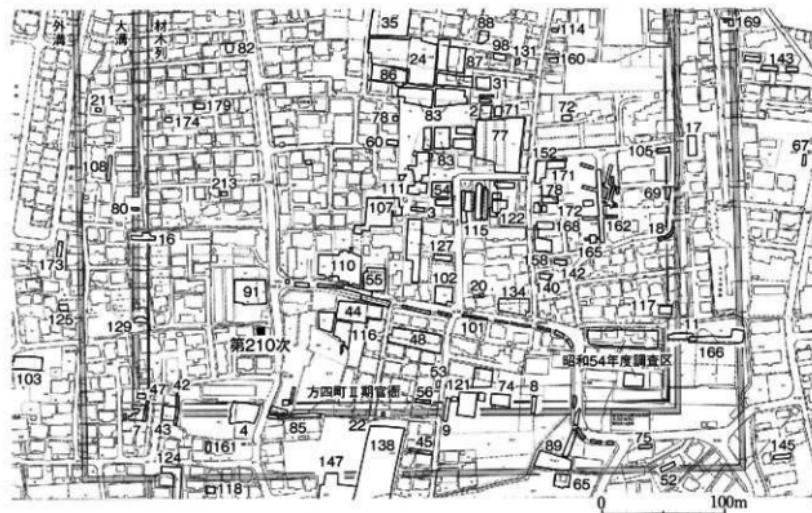
### 2. 調査方法と基本層序

#### (1) 調査方法

建築予定地に南北5m×東西5mの調査区を設定し、重機により盛土を除去した。表土下50cmまで調査区規模で掘削を実施し、それ以下は安全面を考慮し南北4m×東西3mに調査区を縮小した。盛土及び水田耕作土（I層）を除去後、II層上面で遺構検出作業を行なった。平面図は縮尺1/40で作成し、断面図は縮尺1/20で作成した。記録写真はデジタルカメラを使用した。



第30図 第210次調査区配置図 (S=1/200)



第31図 第210次調査区位置図

## (2) 基本層序

調査区は、盛土が約110~130cmあり、その下に水田耕作土であるIa・Ib層があり、さらにその下のII層で遺構検出作業を行なった。

Ia層 2.5GY2/1黒色粘土質シルト。層厚10~18cm。水田耕作土。

Ib層 2.5GY3/1暗オリーブ灰色粘土質シルト。層厚6~14cm。水田耕作土。

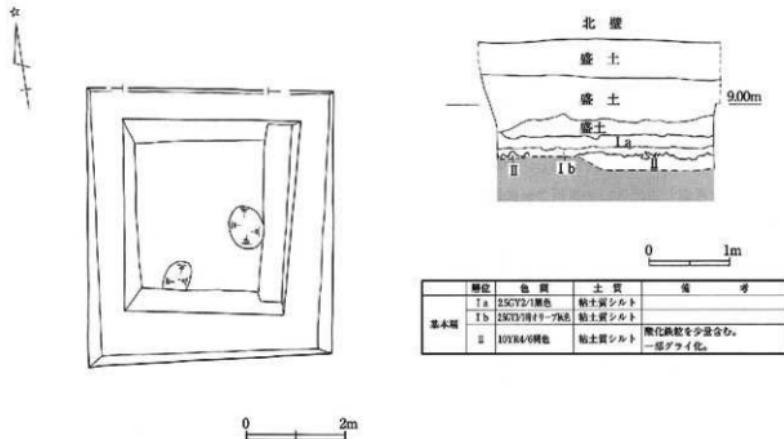
II層 10YR4/6褐色粘土質シルト。層厚20cm以上。酸化鉄粒を少量含む。一部グライ化。

## 3. 発見遺構と出土遺物

遺構は検出されなかった。遺物は盛土中から土師器小片1点、陶器小片1点が出土した。

## 4.まとめ

II層上面で遺構検出作業を行なったが、遺構や遺物は検出されなかった。II層は、本調査区の北側隣地で実施した第91次調査のIII層に対応すると考えられる。後世の耕作や土木工事等によりII層上面は擾乱を受け、遺構は削平されてしまったものと推定される。



第32図 第210次調査区平面図 (S=1/100)・北壁断面図 (S=1/60)



1. 調査区全景 (南から)



2. 北壁断面 (南から)

写真図版 8 第210次調査区

## VI. 郡山遺跡第211次発掘調査

### 1. 調査経過

第211次調査は個人住宅建築工事に伴う調査である。平成23年8月25日付で仙台市太白区郡山2丁目51-5における住宅建築に伴う発掘届が提出された。住宅の基礎工事によって遺構が破壊されると想定されたため、調査を実施することとした。調査地点は方四町II期官衙の西地区の大溝西辺から西に約30mの地点に位置している。

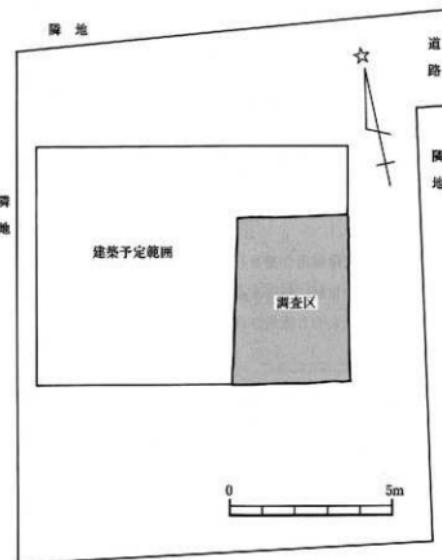
調査は平成23年9月27日から実施し、遺構検出作業を行なった。9月28日に調査を終了し、翌29日に重機により埋め戻しを行った。

### 2. 調査方法と基本層序

#### (1) 調査方法

建築予定地に南北5m×東西4mの調査区を設定し、重機により盛土を除去した。表土下約1mまで調査区規模で掘削を実施し、それ以下は安全面を考慮し南北3m×東西2mに調査区を縮小した。盛土及び水田耕作土（I層）を除去後、II層上面で遺構検出作業を行った。平面

図は縮尺1/40で作成し、断面図は縮尺1/20で作成した。写真はデジタルカメラを使用した。



第33図 第211次調査区配置図



第34図 第211次調査区位置図

## (2) 基本層序

調査区は、盛土が約130cmあり、その下に水田耕作土であるIa・Ib・Ic層があり、さらにその下のII層で遺構検出作業を行なった。

Ia層 2.5GY4/1暗オリーブ灰色粘土質シルト。層厚10~15cm。水田耕作土。

Ib層 2.5GY5/1オリーブ灰色粘土質シルト。層厚0~5cm。水田耕作土。

Ic層 N3/0暗灰色粘土質シルト。層厚5~20cm。水田耕作土。

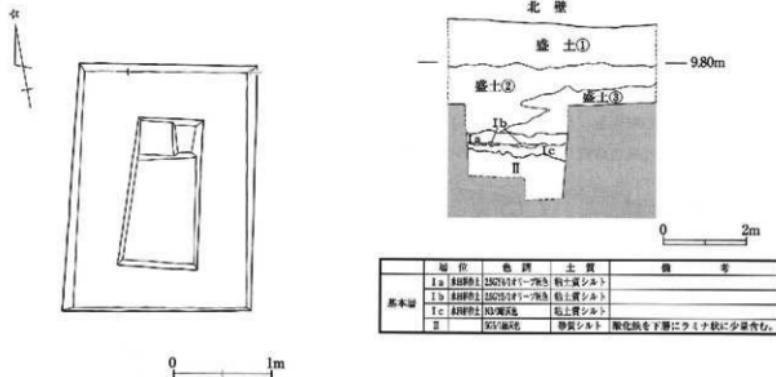
II層 5G5/1緑灰色砂質シルト。層厚50cm以上。酸化鉄を下層にラミナ状に少量含む。

## 3. 発見遺構と出土遺物

遺構は検出されなかった。遺物はIc層から土師器甕の口縁部破片が出土した。

## 4. まとめ

本調査地点の近くには、大正末年から昭和30年代にかけて操業していたレンガ工場があったことが知られている。本調査地点の南部で行われた第108次調査では、レンガ生産のための土取りが原因と考えられる掘削によって、遺構がほとんど削平された状況であった。第108次調査区に近い本調査地点も同様の原因で遺構が削平されてしまったものと推測される。



第35図 第211次調査区平面図 (S=1/100)・断面図 (S=1/60)



1. 調査区全景（北から）



2. 調査区北壁断面（南から）

写真図版9 第211次調査区

## VII. 第212次発掘調査

### 1. 調査経過

第212次調査は個人住宅建築工事に伴う調査である。平成23年9月22日付で仙台市太白区郡山5丁目65-8、65-9、150-14、150-15における住宅建築に伴う発掘届が提出された。本件は、届出の工事計画の内容から、本来は立会調査対応となるものであったが、申請後の地盤調査の結果によっては基礎掘削深度が変更となる可能性があった。工事箇所は、これまで郡山廬寺の塔跡推定地としてきたことから、事前に地表下の状況を確認し、基礎設計の変更となった場合に遺構の保存を図ることを目的として実施した。調査は平成23年10月19日から実施し、遺構検出作業を行なった。当日中に調査を終了し、重機により埋め戻しを行った。

### 2. 調査方法と基本層序

#### (1) 調査方法

新築される個人住宅の基礎に影響を及ぼさないよう、調査は住宅の範囲外に1m四方の調査区を2箇所設定して行なった。重機により盛土及び耕作土（I層）を除去し、基本層であるII層上面で遺構検出作業を行なった。平面図は縮尺1/40で作成し、断面図は縮尺1/20で作成した。記録写真はデジタルカメラを使用した。

#### (2) 基本層序

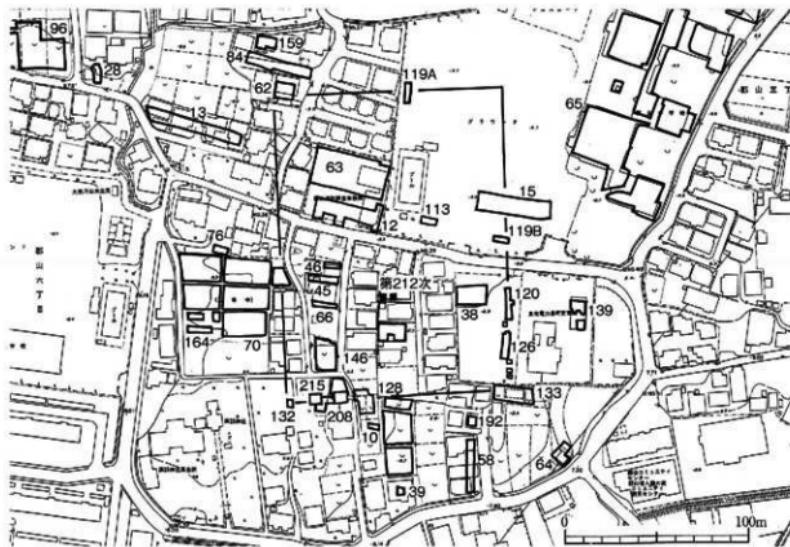
調査区は、盛土が約60cmあり、その下に旧耕作土であるIa・Ib・Ic層があり、さらにその下のII層上面で遺構検出作業を行なった。

Ia層 10YR4/1褐灰色シルト。層厚0~30cm。

Ib層 10YR5/6黄褐色シルト。層厚10~18cm。

Ic層 10YR3/3暗褐色シルト。層厚。6~14cm。

II層 10YR4/6褐色砂質シルト。マンガン粒を多く含む。



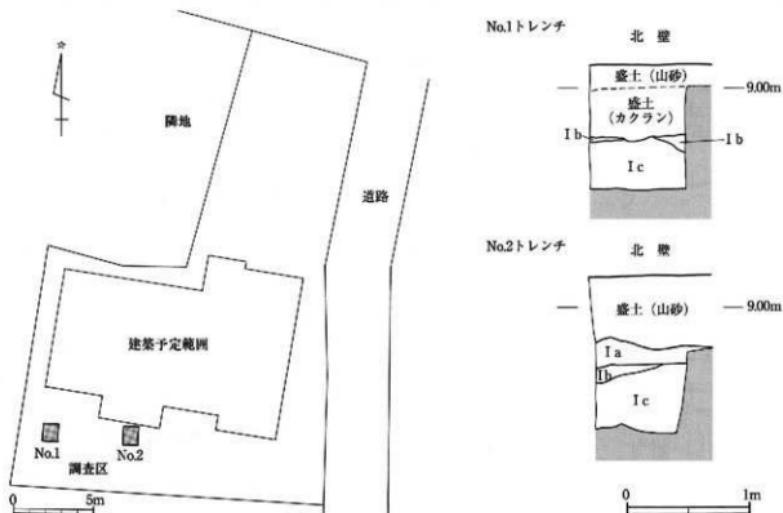
第36回 第212次調査区配置図

### 3. 発見遺構と出土遺物

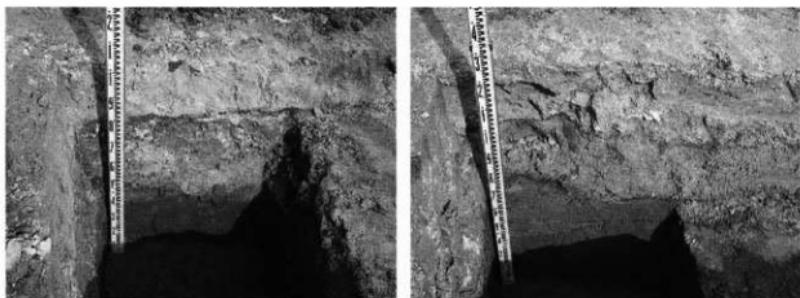
遺構は検出されなかった。遺物はIc層中から瓦片8点が出土した(第38図1~6)。出土した瓦片は、凹面に布目痕、凸面は繩叩き後ナデやケズリによる調整が施されるもので、これまで郡山廃寺で出土したものと同様の特徴を持っている。

### 4.まとめ

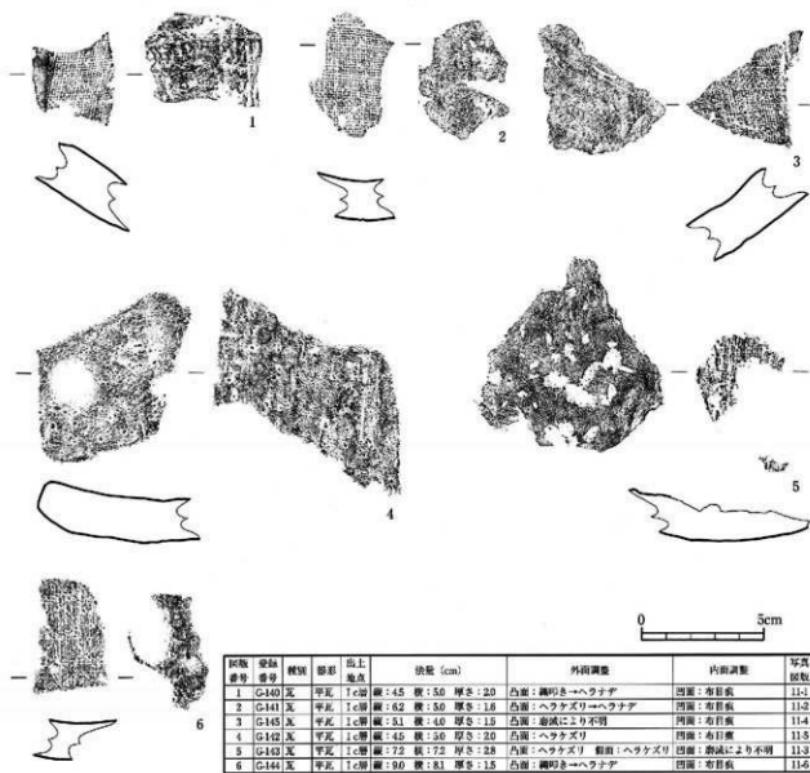
本調査では、郡山廃寺に関わる遺構は検出されなかった。講堂基壇が検出された第12次調査では、基壇版築の最下層の標高が8.55mに対し、本調査区では8.0~8.2mで基本層(Ⅱ層)が検出された。本調査地点は、耕作による天地返しが深く及び、古代の遺構が削平されている可能性が考えられる。



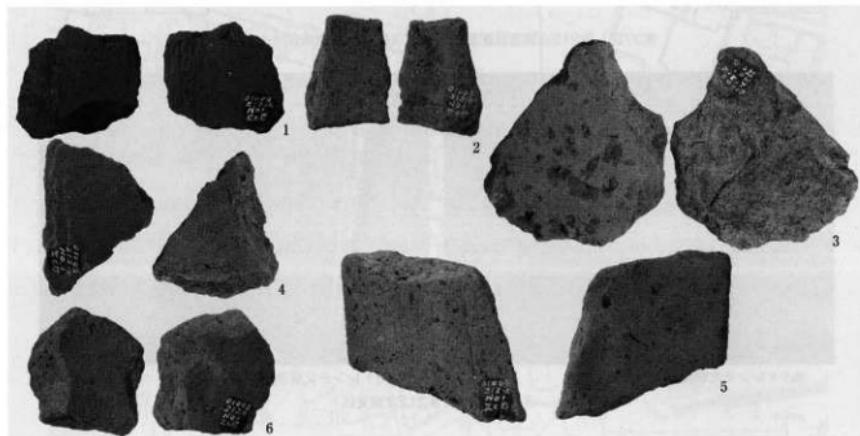
第37図 第212次調査区配置図 (S=1/300)・北壁断面図 (S=1/40)



写真図版10 第212次調査区



第38図 出土遺物 (S-1/2)



写真図版11 第212次調査区出土遺物

## VIII. 第213次発掘調査

### 1. 調査経過

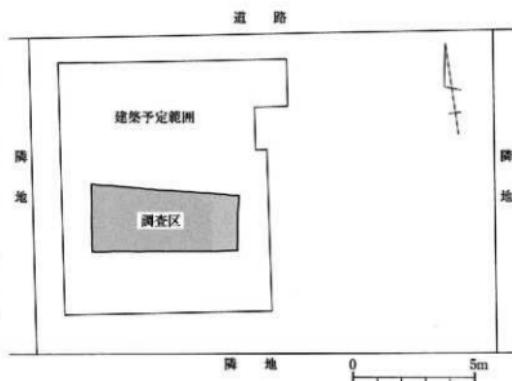
第213次調査は個人住宅建築工事に伴う調査である。平成23年10月27日付で仙台市太白区郡山2丁目58-10、58-11における住宅建築に伴う発掘届が提出された。住宅の基礎工事によって遺構が破壊されると想定されたため、調査を実施することとした。

調査は平成23年11月7日から実施し、遺構検出作業を行なった。当日中に調査を終了し、重機により埋め戻しを行い、翌8日に器材の撤収を行なった。

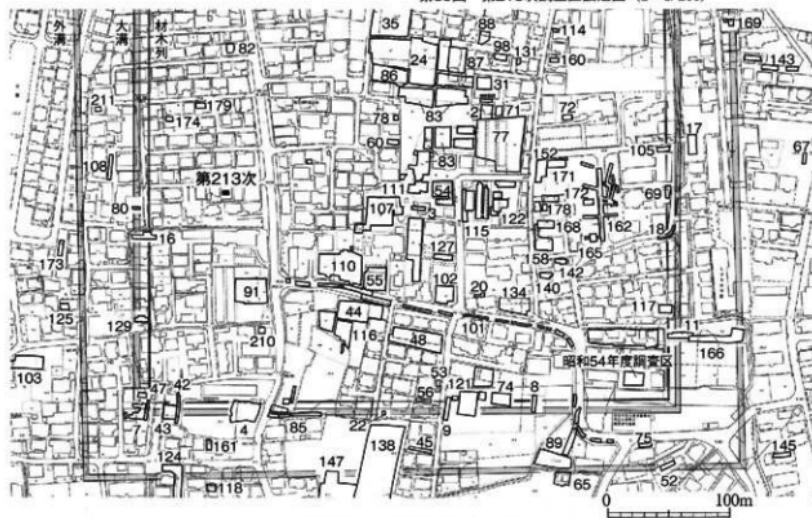
### 2. 調査方法と基本層序

#### (1) 調査方法

建築範囲内にそれぞれ南北3m×東西6mの調査区を設定し、重機により盛土を除去した。表土下約50cmまで調査区規模で掘削を実施し、それ以下は安全面を考慮し南北1.5m×東西4mに調査区を縮小した。盛土及び水田耕作土(I層)を除去後、II層上面で遺構検出作業を行なった。平面図は縮尺1/40で作成し、断面図は縮尺1/20で作成した。写真はデジタルカメラを使用した。



第39図 第213次調査区設定図 (S=1/200)



第40図 第213次調査区位置図

## (2) 基本層序

調査区は、盛土が約90cmのあり、その下に水田耕作土であるI a・I b・I c層があり、さらにその下のII層で造構検出作業を行なった。

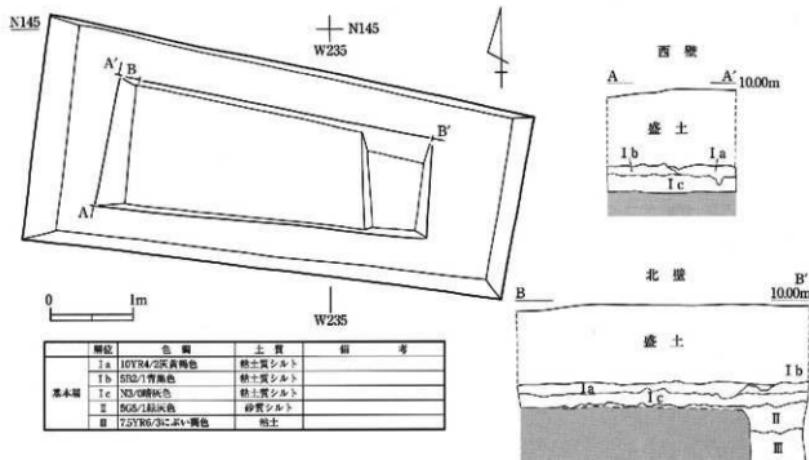
- I a層 10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト。層厚0~15cm。水田耕作土。
- I b層 5B2/1青黒色粘土質シルト。層厚0~15cm。水田耕作土。
- I c層 N3/0暗灰色粘土質シルト。層厚10~25cm。水田耕作土。
- II層 5G5/1緑灰色砂質シルト。層厚30~35cm。
- III層 7.5YR6/3にぶい褐色粘土。層厚40cm以上。

## 3. 発見遺構と出土遺物

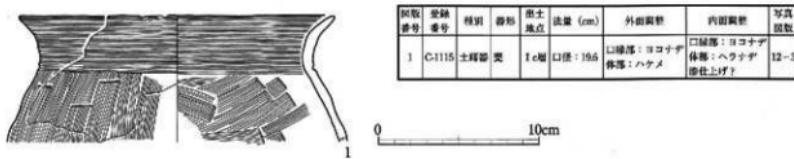
遺構は検出されなかった。遺物はI c層中からC-1115土師器甕（第42図1）が出土した。

## 4.まとめ

本調査区では、水田耕作土の直下約13mの深さで基本層を確認した。このような状況は第108・211次調査区と同様であり、レンガ生産による土取りが原因となって遺構が削平されたものと考えられる。



第41図 調査区平・断面図 (S=1/60)



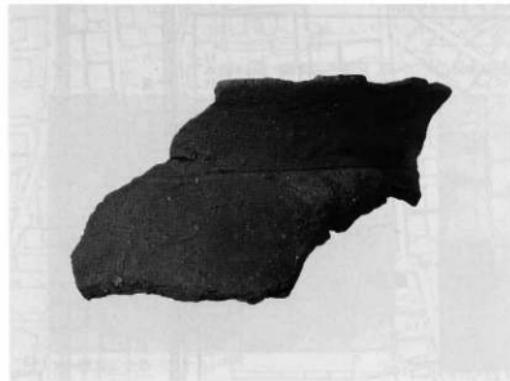
第42図 第213次出土遺物



1. 調査区全景（東から）



2. 調査区西壁（東から）



3. C-1115土師器甕 Ib層出土  
写真図版12 第213次調査区及び出土遺物

## IX. 第214次発掘調査

### 1. 調査経過

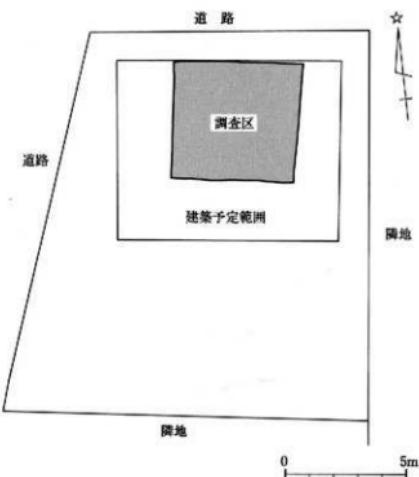
第214次調査は個人住宅建築工事に伴う調査である。平成23年11月7日付で仙台市太白区郡山3丁目23-11における住宅建築に伴う発掘届が提出された。住宅の基礎工事によって遺構が削平されると想定されたため、調査を実施することとした。

調査は平成23年12月5日から実施し、遺構検出作業を行なった。当日中に調査を終了し、重機により埋め戻しを行なった。

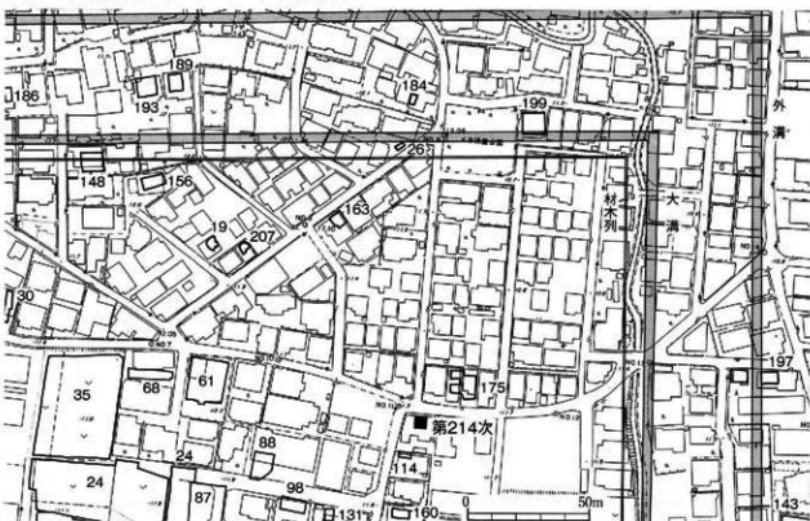
### 2. 調査方法と基本層序

#### (1) 調査方法

建築範囲内にそれぞれ南北5m×東西5mの調査区を設定し、重機により盛土及び石炭ガラ約190cmを除去した。それ以下は安全面を考慮し南北2m×東西2mに調査区を縮小し、水田耕作土（I層）を除去した。その後、基本層II層上面で遺構検出作業を行なった。平面図は縮尺1/40、断面図は縮尺1/20で作成した。記録写真はデジタルカメラを使用した。



第43図 第214次調査区配置図 (S=1/200)



第44図 第214次調査区位置図

## (2) 基本層序

調査区は、盛土が約1.9mあり、その下に旧水田耕作土であるIa・Ib層があり、さらにその下のII層上面で遺構検出作業を行なった。

Ia層 7.5Y2/1黒色砂質シルト。層厚14~23cm。水田耕作土。

Ib層 7.5Y4/1灰色砂質シルト。層厚15~30cm。酸化鉄ブロックを下層に多量に含む。水田耕作土。

II層 7.5Y4/2灰オリーブ色粘土質シルト。層厚10cm以上。

## 3. 発見遺構と出土遺物

遺構・遺物は発見されなかった。

## 4. まとめ

本調査区では、水田耕作土の直下約1.9mの深さで基本層を確認した。このような状況は北側隣地で実施した第114次調査区と同様であり、レンガ生産による土取りが原因となって遺構が削平されたものと考えられる。

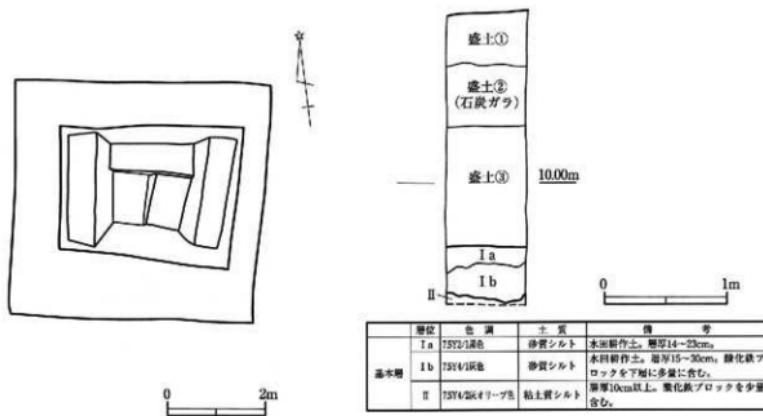


図45 調査区平面図 (S=1/100)・北壁柱状図 (S=1/40)



1. 調査区全景 (東から)



2. 調査区北壁 (南から)

写真図版13 第214次調査区

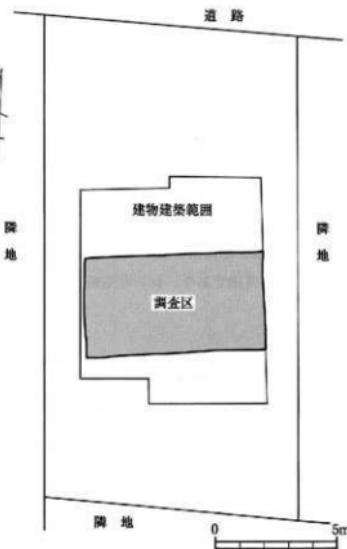
## X. 第215次発掘調査

### 1. 調査経過

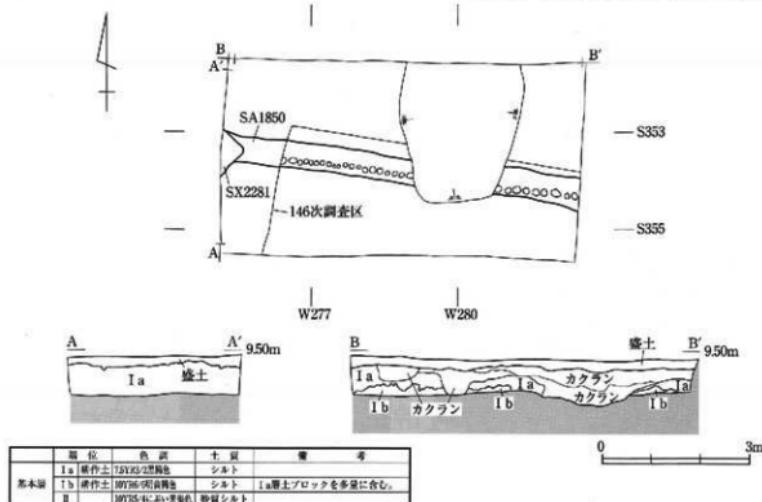
第215次調査は個人住宅建築工事に伴う調査である。平成23年11月30日付で仙台市太白区郡山5丁目148-34における住宅建築に伴う発掘届が提出された。住宅建築における杭打ち工事によって遺構が削平されると想定されたため、調査を実施することとした。

調査地点は、郡山廃寺の南部にあたる。第146次調査区と一部重複し、第208次調査の西に隣接する。遺跡内での位置は第25図を、第146・208次調査区との位置関係は第26図を参照されたい。

調査は平成23年12月6日から実施した。調査の中で、郡山廃寺南辺に間連する材木列を検出したため、遺構の保存協議を行った。12月19日に代理人と遺構保存について協議したところ、遺構への杭打ちを回避する設計変更の承諾が得られた。翌20日に、埋め戻しを行い、材木列の位置を明示した上で調査を終了した。



第46図 第215次調査区配置図 (S=1/200)



第47図 第215次調査区平面図 (S=1/100)・断面図 (S=1/60)

## 2. 調査方法と基本層序

### (1) 調査方法

建物建築範囲の南東部は、第146次調査で遺跡の範囲確認調査を行っており、今回の調査は未調査部分の北西部を対象とした。建築範囲内にそれぞれ南北4m×東西7.5mの調査区を設定し、重機により盛土およびI層を除去後、II層上面で遺構検出作業を行った。遺構検出後、保存協議を行なうため、遺構を掘り込んでの調査は行わなかった。平面図は縮尺1/40、断面図は縮尺1/20で作成した。記録写真はデジタルカメラを使用した。

### (2) 基本層序

調査区は、盛土が約20cmあり、その下に旧耕作土であるIa・Ib層がある。さらにその下のII層上面で遺構が検出された。

Ia層 7.5YR3/2黒褐色シルト。層厚0~65cm。旧畑耕作土。

Ib層 10YR6/6明黄褐色シルト。層厚0~25cm。Ia層ブロックを多く含む。旧畑耕作土。

II層 10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルト。

## 3. 発見遺構と出土遺物

材木列1列、性格不明遺構1基を検出した。遺物は、土師器片、瓦片が出土している。

【SA1850材木列】調査区中央で検出した。第146次調査C・D区及び第208次調査で検出されている材木列の延長である。検出長は7.3mで、そのうち1.2mを今回の調査で検出した。SX性格不明遺構と重複関係があり、それよりも古い。この材木列は、郡山廃寺の南辺となる材木列であることが判明している。協議の結果、保存が図られるここととなったため、遺構の検出に留め、掘り込み等は行わなかった。

## 4. まとめ

第146次調査及び第208次調査で検出された郡山廃寺南辺となるSA1850材木列の延長が検出された。材木列は、遺構保存協議の結果、保存されることになった。



1. 調査区全景（東から）



2. 西壁断面（東から）



3. 北壁断面（南から）

### 第3章 与兵衛沼窯跡

#### 1. 調査経過と調査方法

平成23年度に予定していた与兵衛沼公園内の電磁探査による分布調査は、東日本大震災により延期となった。そのような中で、震災によって与兵衛沼の水利施設が破損し、水位が下がり底面が露出したことで、沼北岸に窯跡が確認された。現地踏査を行ったところ、瓦の分布が広範囲に見られ、さらに多くの窯跡が発見された。現地にて、平成23年6月26日と8月4日に遺構の分布を確認する調査を実施するに至った。光波トランシットを使用して測量図を作製し、記録写真はデジタルカメラを使用した。

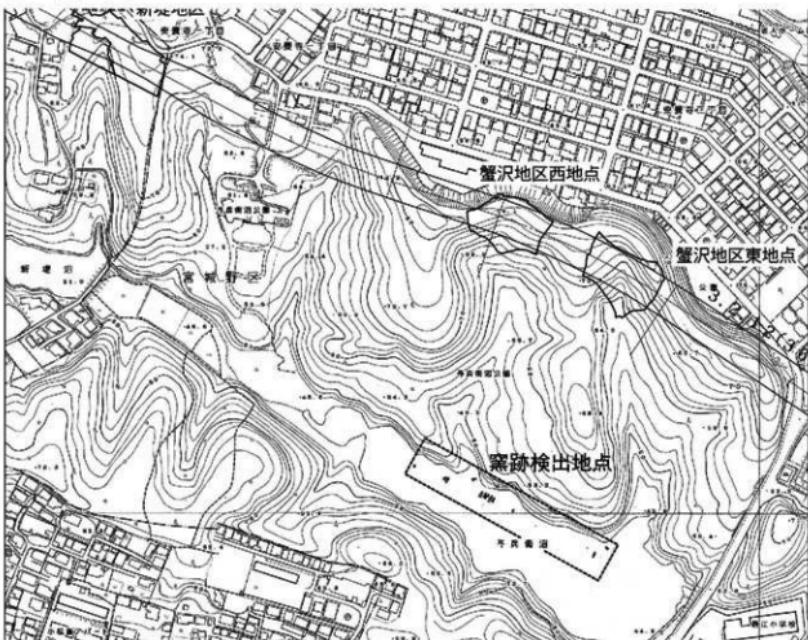
調査終了後、新たに確認したすべての窯跡を、与兵衛沼を含む与兵衛沼公園の管理部署である宮城野区公園課に依頼し、ブルーシートで保存した。なお、これらの成果をもとに、11月28日に郡山遺跡・陸奥国分寺跡等調査指導委員会を開催し、現地視察を実施した。

#### 2. 発見遺構と出土遺物

与兵衛沼北岸で東西・約220m、南北約20mの範囲に13基の窯跡を確認した。いずれも残存状態は良好ではなく、焼成部床面の一部が丸瓦・平瓦と共に多数露出した状態であった。窯跡からは瓦片をサンプルとして採集した。

#### 3. まとめ

これらの窯跡の基数やグルーピング、その年代や窯跡間の前後関係を検討するため、来年度遺構の確認調査を実施する予定である。



第48図 与兵衛沼窯跡調査区位置図

-註-

- (1) 仙台市教育委員会2005「第6章 考察 第1節 出土遺物3. 瓦」『郡山遺跡発掘調査報告書 総括編(1)』仙台市文化財調査報告書第283集p.258~261の分類基準による。  
F-105軒丸瓦は、蓮子や子葉の形状が明瞭ではなく、範の状態が良好ではない可能性が考えられる。
- (2) これまでの出土例では、G-1(第12次調査)、G-28(第46次調査)、G-48(第63次調)などが出土しており、これらと同類のものと考えられる。凸面に波状文の入る平瓦は軒平瓦として使用された可能性がある。
- (3) 本文中の「関東系土師器」という用語については、関東地方の土師器編年でいう「鬼高式」の土師器環の特徴のあるものを含んでいる。
- (4) 長島榮一2000「仙台市郡山遺跡出土の平瓦をめぐって」『阿部正光君追悼集』阿部正光君追悼集刊行会によると。

-引用・参考文献-

- 佐川正敏・高橋誠明・高松俊雄・長島榮一 2005 「8 陸奥の山田寺系軒瓦」『古代瓦研究Ⅱ－山田寺式軒瓦の成立と展開－』 奈良文化財研究所 p.p240~242
- 仙台市教育委員会 1981 「第12次調査」『郡山遺跡Ⅱ』 仙台市文化財調査報告書第38集
- 仙台市教育委員会 1995 「第108次調査」『郡山遺跡XVI』 仙台市文化財調査報告書第210集
- 仙台市教育委員会 1996 「第114次調査」『郡山遺跡XVII』 仙台市文化財調査報告書第227集
- 仙台市教育委員会 1991 「第91次調査」『郡山遺跡XII』 仙台市文化財調査報告書第161集
- 仙台市教育委員会 2003 「第156次調査」『郡山遺跡24』 仙台市文化財調査報告書第263集
- 仙台市教育委員会 2005 「郡山遺跡発掘調査報告書 総括編(1)」 仙台市文化財調査報告書第283集
- 近つ飛鳥博物館 2006 「年代のものさし—陶器の須恵器—」 大阪府立近づ飛鳥博物館図録40
- 長島榮一 2000 「仙台市郡山遺跡出土の平瓦をめぐって」『阿部正光君追悼集』 阿部正光君追悼集刊行会 松弘堂 p.p101~113
- 長島榮一 2009 「官衙からみた関東系土師器」『古代社会と地域間交流－土師器からみた関東と東北の様相－』 国士館大学考古学会編 六一書房 p.p125~140
- 西 弘海 1986 「土器様式の成立と展開」 真陽社

## 第4章 調査成果の普及と関連活動

### 1. 主な広報・普及・協力活動

年月日	行事名称	担当	主催
2011. 7. 12	郡山遺跡美化活動	整備活用係	仙台市立東長町小学校6年生・文化財課
10. 26	郡山遺跡ビロティ見学	整備活用係	ディスカバーハイスク 区内探訪会
11. 8~10	職場体験学習	佐藤(正)・大久保	仙台市立袋原中学校2年生
11. 14~17	職場体験学習	佐藤(正)・大久保	仙台市立柳生中学校2年生
11. 16~18	職場体験学習	佐藤(正)・大久保	仙台市立郡山中学校2年生
11. 17	職場体験学習	佐藤(正)・大久保	仙台市立松陵中学校2年生
11. 18	職場体験学習	佐藤(正)・大久保	仙台市立富沢中学校2年生
2012. 1. 16~20	職場体験学習	佐藤(正)・大久保	仙台市立八軒中学校2年生
2011. 4. 8~ (毎月8日)	薬師堂手づくり市	整備活用係	薬師堂手づくり市実行委員会

### 2. 調査指導委員会の開催

- 平成23年度 第1回 郡山遺跡・陸奥国分寺跡等調査指導委員会

平成23年11月28日 仙台市役所第3会議室・若林区役所第1会議室

- ・与兵衛沼窯跡調査現地指導（平成23年11月25日・28日・12月1日）

- 平成23年度 第2回 郡山遺跡・陸奥国分寺跡等調査指導委員会

平成24年3月21日 仙台市役所北庁舎5階第3会議室

- ・平成23年度調査成果について
- ・平成24年度調査計画について
- ・次期委員会について



ビロティ見学風景



郡山遺跡美化活動

## 報 告 書 抄 錄

仙台市文化財調査報告書第406集

## 郡山遺跡 32

平成23年度発掘調査概報  
— 郡山遺跡・与兵衛沼廻跡 —

2012年3月

発行 仙 台 市 教 育 委 員 会

仙台市青葉区二日町1-1

文化財課 TEL 022 (214) 8893

印刷 毛 リ タ 印 刷 株 式 会 社

仙台市太白区郡山八丁目20-30

TEL 022 (246) 0105

